

平成31年（令和元年）度 みやざき小中学校学習状況調査 分析結果

目次

I	調査の概要		
	実施の概要	2
II	小学校の分析結果		
	1 小学校4年：国語	4
	2 小学校5年：国語	6
	3 小学校4年：算数	8
	4 小学校5年：算数	10
III	中学校の分析結果		
	1 中学校1年：国語	13
	2 中学校2年：国語	16
	3 中学校1年：社会	19
	4 中学校2年：社会	22
	5 中学校1年：数学	25
	6 中学校2年：数学	28
	7 中学校1年：理科	31
	8 中学校2年：理科	34
	9 中学校2年：英語	37



令和元年8月 宮崎県教育委員会

I 調査の概要

実施の概要

調査目的	県内の公立小・中学校及び中等教育学校（前期課程）、特別支援学校の小・中学部における児童生徒の学習の定着状況を把握・分析し、その結果をもとに、学校における学習指導の充実・改善等に役立てる。
実施日	平成31年4月18日(木)～19日(金)
調査対象校	市町村立小学校 のべ230校 市町村立中学校 のべ125校 五ヶ瀬中等教育学校（前期課程） 宮崎西高等学校附属中学校 都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 特別支援学校〔3校〕（小学部2・中学部3）〈調査の実施を希望する学校〉 宮崎大学教育学部附属小学校 / 宮崎大学教育学部附属中学校
対象学年 調査人数	〈小学校〉 第4学年（10,019人） 第5学年（10,043人）
	〈中学校〉 第1学年（9,252人） 第2学年（8,814人）
調査実施内容	<p><学習状況調査></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校第4学年：国語、算数 ○ 小学校第5学年：国語、算数 ○ 中学校第1学年：国語、社会、数学、理科 ○ 中学校第2学年：国語、社会、数学、理科、英語 <p>※ 学習指導要領に示されている各教科の目標に即し、それぞれの教科の観点に沿った内容で調査を実施する。</p> <p>※ A問題：基礎的・基本的な知識・技能の定着状況をみる問題（各教科20問）</p> <p>※ B問題：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力をみる問題（各教科5問）</p>

- ※ 4ページ以降の各教科の分析結果は、以下のデータに基づいて作成しております。
- 設問別正答率：「正答数」の合計÷生徒数（%）
 - 「分野・領域」における正答率の数値は、各設問の正答率のデータを基に算出したものです。多少の誤差が生じていることを御了承ください。

Ⅱ 小学校の分析結果

- 1 小学校4年：国語
- 2 小学校5年：国語
- 3 小学校4年：算数
- 4 小学校5年：算数

1 小学校4年：国語

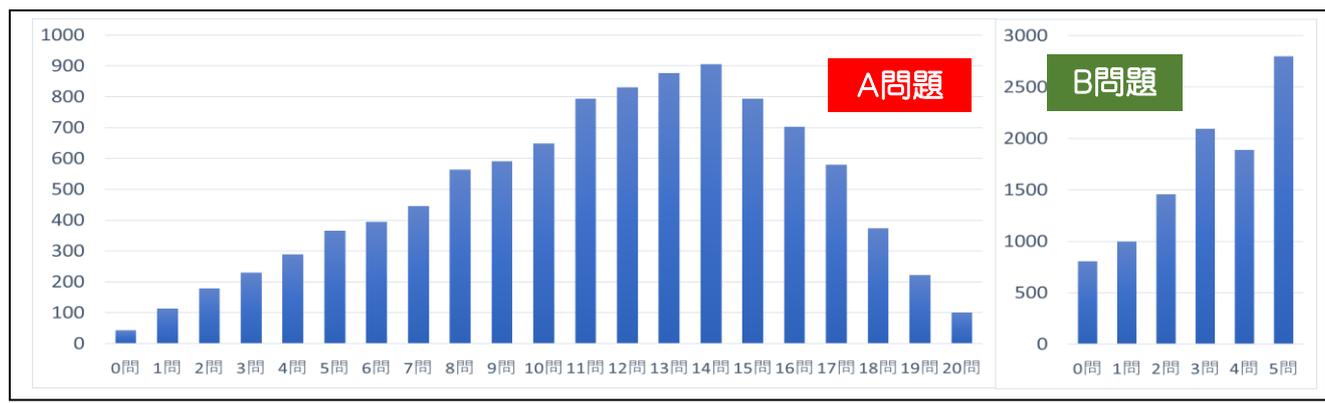
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**58.3%**である。「話すこと・聞くこと」については、平均正答率が**65.3%**となっている。一方、「書くこと」については、平均正答率が**40.4%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低く、無解答率が高かったA問題の**二問一**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		57.1		63.2		65.3	40.4

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のわらい	領域	正答率 (%)	無解答率 (%)	
	番号	大問	中間 小問						
A	1	1	1	内容の理解	叙述をもとに登場人物の心情をとらえることができる。	読むこと	95.5	0.4	
	2		2	内容の理解	叙述をもとに内容を正しく読むことができる。	読むこと	37.9	13.7	
	3	2	1	内容の理解	中心となる語や文をとらえて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	46.9	8.3	
	4		1	内容の理解	中心となる語や文をとらえて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	51.2	10.7	
	5	2		国語辞典の用法	国語辞典の使い方を理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	48.0	3.5	
	6	3	1	① 説明の理解	大事なことを落とさないように聞くことができる。	話すこと・聞くこと	65.0	8.4	
	7		2	② 説明の理解	大事なことを落とさないように聞くことができる。	話すこと・聞くこと	77.8	7.9	
	8		2	スピーチで気を付けること	相手によく伝わるように気を付けて話すことができる。	話すこと・聞くこと	82.1	4.4	
	9	4	1	接続語の活用	文と文のつながりや文末表現に注意して書くことができる。	書くこと	33.0	3.9	
	10		2	文章の推敲	よりよい表現に書き直すことができる。	書くこと	47.8	6.0	
	11	5	1		指示語が表す位置関係を正しく判断することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	53.3	4.4	
	12		2		ローマ字の知識	ローマ字で正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	45.2	11.4
	13		3	(1)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	56.4	12.5
	14			(2)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	76.0	6.1
	15			(3)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	66.1	13.4
	16			(4)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	53.9	14.8
	17			(5)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	73.3	11.4
	18			(6)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	54.3	14.2
	19		4		筆順の理解	正しい筆順で漢字を書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	35.3	7.6
	20		5		「はらい」の書き方	毛筆において「はらい」の書き方に注意して書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	42.8	8.6
B	21	1	1	話し合いにおける司会者の役割	話し合いにおける司会者として、意見を整理しながら進行ができる。	話すこと・聞くこと	68.6	4.2	
	22		2	話し合いにおける決定事項	話し合いにおける司会者として、話し合いをまとめることができる。	話すこと・聞くこと	63.7	4.7	
	23	2	1	①② 目的に応じていろいろなテキストを読むこと	チームの作戦図をもとに、ボールを渡す順番を読み取ることができる。	読むこと	84.3	6.2	
	24		A	絵や図から読み取ったことをもとに話すこと	チームの作戦図をもとに、チームの作成を正しく話すことができる。	話すこと・聞くこと	48.4	16.4	
	25		B	絵や図から読み取ったことをもとに話すこと	チームの作戦図をもとに、チームの作成を正しく話すことができる。	話すこと・聞くこと	51.2	19.1	

特徴の見られた問題例 (小学校4年 国語)

A問題 問一 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題

問一
 う。ま歩つとむさん
 した。く人がは、
 【交通安全だよりの一部】
 りの二つをわたる時
 のこととは、
 大切なこと
 を、
 二つを
 見
 つ
 け
 よ

【交通安全だよりの一部】

交通安全だより

平成31年3月
ひむか市役所

春の交通安全運動がはじまります

4月になると、全国交通安全運動がはじまります。みんなで交通ルールをまもり、交通事故ゼロをめざしましょう。

ひむか市の交通安全テーマ

- 大人みんなで小学生や中学生の登下校をまもる。
- 子どもや高れい者は安全な歩行を行う。
- 車を運転する人はシートベルトを着用する。
- 飲酒運転をぜったいにしない。

けいさつかんの方に聞いてみました

～道ろで気をつけることは何ですか？～

歩行者（歩く人）と車とが交通事故をおこさないようにするために、歩行者と運転する人の両方が気をつけてほしいと思います。

小学生などの子どもさんや高れい者が道ろをわたる時は、できるだけ信号きのあるおうだん歩道をわたるようにしましょう。また、車を運転する人は、とくに、交差点やおうだん歩道があるところでの歩行者に気をつけ、一時でいしの場所では、しっかり一時でいしをしましょう。

小学生のとび出しの事故も多いです。道ろをわたる時の左右の安全かくにんもしっかりしてください。

小学生のつとむさんは、学校でくばられた市役所からの交通安全だよりの時役所から大切なことについて考えました。次の【交通安全だよりの一部】をよんで、下の問いに答えましょう。

正答	(例)	・ できるだけ信号きのあるおうだん歩道をわたること	平均正答率 (%)	46.9
ねらい	中心となる語や文をとらえて、文章に書かれていることを理解することができる。	・ 左右の安全かくにんすること	無解答率 (%)	8.3

☆分析

- ・ 「歩く人が道ろをわたるときに大切なこと」について解答していない例が見られた。
- ・ どの情報を活用しなければならないか、見付けられていない例が見られた。

☆指導のポイント

① 様々な文章や情報の中から必要な情報を見付けさせ、見届けを行う。

- ・ どの情報を活用し、取捨選択するのか、発問をとおして丁寧に指導し、情報の取り出し方を具体的に教える。
- ・ 広報紙や広告など、横書きの文面等を授業の中で活用し、その中から必要な情報を取り出すなど資料と文とを関連させた指導を行う。
- ・ 必要な情報を見付けられているか、習熟の時間を授業や単元の中に位置付け確実に見届ける。



② 文の構成における基礎・基本の定着を図る指導を行う。

- ・ 主語・述語・修飾語等、系統性を意識しながら指導する。
- ・ 文の大体をとらえたり、段落相互の関係をとらえたりする内容を授業で扱い、児童に考えさせる場面を設定する。
- ・ 中心となる語や文をとらえさせる内容を取り入れたり、発問をしたりしながら、児童同士で解決させる時間を設定する。



◎ 指導を充実させるために…

- 前学年の教科書等を活用し、文章の大体を理解させたり、まとめさせたりする。
- 資料を活用させる視点を具体的に示しながら、国語科だけでなく他教科と関連を図りながら学習を進めていく。
- 内容をまとめたり、語や文に注目させたりする時間（15分程度）を学習指導過程に位置付け具体的に指導する。
- ・ …これらの視点も重要な手立てとなる。



2 小学校5年：国語

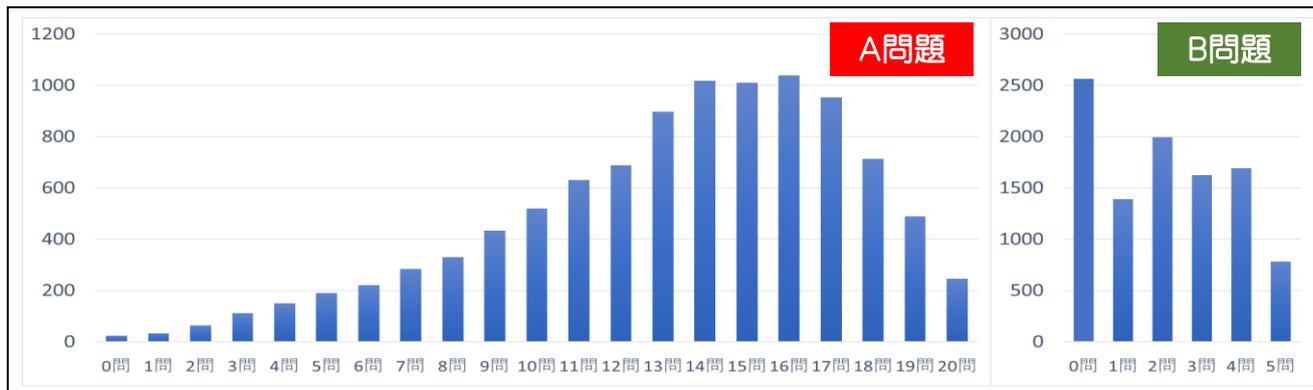
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**62.0%**である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、平均正答率が**68.2%**となっている。一方、「書くこと」については、平均正答率が**51.5%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったB問題の**2問2**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		67.1		41.6		53.7	51.5

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

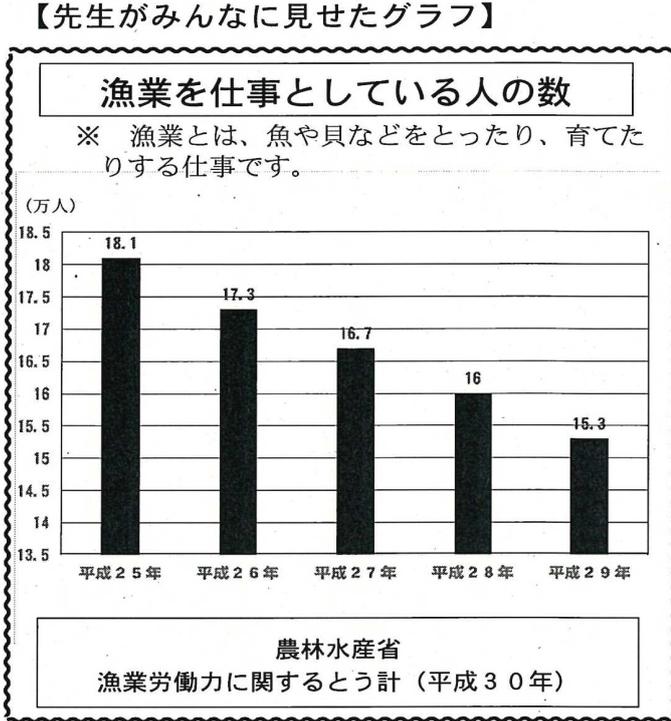
領域	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)	
	番号	大問	中問						小問
A	1	1	1	内容の理解	叙述をもとに、登場人物の状況をとらえることができる。	読むこと	93.6	0.2	
	2		2	内容の理解	叙述をもとに、登場人物の心情を想像することができる。	読むこと	71.6	0.5	
	3	2	1	内容の理解	中心となる語や文を捉えて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	79.9	1.2	
	4		2	内容の理解	指示語を的確に捉えて、文章に書かれていることを理解することができる。	読むこと	48.9	4.0	
	5	3	1	接続語の活用	文と文のつながりに注意して書くことができる。	書くこと	44.5	3.7	
	6		2	文章の推敲	よりよい表現に書き直すことができる。	書くこと	61.1	8.1	
	7		3	手紙の書き方	手紙を書くときに、後付けを正しく書くことができる。	書くこと	48.8	3.1	
	8	4	1	司会者の役割	司会者として、それぞれの意見の共通点を見つけて話し合いを進めることができる。	話すこと・聞くこと	63.5	7.9	
	9		2	司会者の役割	司会者の話し合いの進め方のよいところを見付けることができる。	話すこと・聞くこと	83.2	5.2	
	10		3	話し合いにおける質問	話し合いの中で、ねらいをもって質問することができる。	話すこと・聞くこと	66.1	6.7	
	11	5	1	(1)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	63.5	9.8
	12			(2)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	71.9	8.3
	13			(3)	漢字の書き	文脈に則して漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	80.7	8.9
	14			(4)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	100.0	0.0
	15			(5)	漢字の読み	文脈に則して漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	99.9	0.0
	16		2		ローマ字の知識	ローマ字で正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	41.0	16.8
	17		3	ア	筆順の理解	正しい筆順で漢字を書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	35.4	6.9
	18			イ	筆順の理解	正しい筆順で漢字を書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	59.7	7.1
	19		4		慣用句の使い方	文章の中で、慣用句を正しく使うことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	81.2	9.7
	20		5		主語述語	文の内容に則して、主語と述語をとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	48.3	9.2
B	21	1	1	①	目的に応じて必要な情報をとらえることができ	おにぎりを作った後の感想を踏まえ、おにぎりのページのどこをどのように読めばよいかを判断できる。	読むこと	50.8	5.0
	22			②	目的に応じて必要な情報をとらえることができ	おにぎりを作った後の感想を踏まえ、おにぎりのページのどこをどのように読めばよいかを判断できる。	読むこと	47.8	6.4
	23	2	1	ア	話し合いにおける司会者の役割	話し合いにおける司会者として、意見を整理しながら進めることができる。	話すこと・聞くこと	37.3	8.9
	24			イ	話し合いにおける司会者の役割	話し合いにおける司会者として、意見を整理しながら進めることができる。	話すこと・聞くこと	50.1	9.5
	25			2		グラフから読み取ったことを基に話すことができる。	条件を踏まえながら、話し合いにおける質問を考えることができる。	話すこと・聞くこと	21.8

特徴の見られた問題例 (小学校5年 国語)

B問題 問二 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題

- 【条件】
- 漁業を仕事とする人の数の変化について書くこと。また、そこから考えられるしつ問を書くこと。
 - 話し合い中で、実さいに発表するように書くこと。
 - 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

問二 司会者の青木さんは、グループの人たちに、「先生がみんなに見せたグラフ」をもとに、魚市場の人に対する他のしつ問を出してもらおうとしています。あなたなら、**A**のところを、どのようなしつ問を考えて発表しますか。次の【条件】に合わせて書きましょう。



青木さんの学級では、社会科の学習で、職業ごとにいくつかのグループに分かれて、地いきで働く人にインタビューをすることにしました。次は、青木さんのグループが、「魚市場」で働く人へのしつ問の内容を話し合っている様子です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

正答	(例) グラフから、漁業を仕事とする人がへっていることが分かります。このことから、魚市場で売る魚や貝などがへってしまう心配はないですかというしつ問が考えられます。		
ねらい	条件を踏まえながら、話し合いにおける質問を考えることができる。	平均正答率 (%)	21.8
		無解答率 (%)	17.4

☆分析

- ・ グラフの読みが不正確な記述や漁業従事者の減少(事実)だけを記述した回答が見られた。
- ・ 直接漁師さんに質問するような記述や文字数条件を達成できていない記述も見られた。
- ・ 最後の問題であったため、解答の時間不足や当該問題へ行きつかなかったとも考えられる。

☆指導のポイント

- ① 示された情報の中から必要とする情報をみる力を育てる。
 - ・ グラフから縦軸、横軸の表題を言えるかどうか確かめながら指導する。
 - ・ 示された情報にある値や項目を正しく言えるよう指導する。
 - ・ グラフの特色(例:棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ等)に応じて、見方やグラフのとらえ方を意識した発問をする。
- ② 情報と自分の考えをつなぐ力を育てる。
 - ・ 話型の例を示すなどして、児童自身の考えを表出させる場面を作る(発表、記述等)。(児童の発表例「このことから、・・・～だと考えられます」)
 - ・ 目的に応じて情報を選択したり、比較・分類したりして、情報全体から変容を考えさせる。(例:数の変化傾向、値の比較から言えることなど)
- ③ 日常指導の中で、条件に即した表現力を育てる。
 - ・ 体験したことを指定した文字数条件で書かせる習熟を図る。
 - ・ 学級の活動(例:一分間スピーチなど)で、全員共通のテーマを設定し、各児童の意見発表をつなぐ対話形式の取組を行う。
- ◎ 指導を充実させるために…
 - 目的を意識した話し合い活動の充実を図る。
 - 国語科の時間を主として情報と情報との関連付けの仕方を指導するとともに、その視点を他教科でも意識して指導する。
 - ・・・・これらの視点も重要な手立てとなる。

3 小学校4年：算数

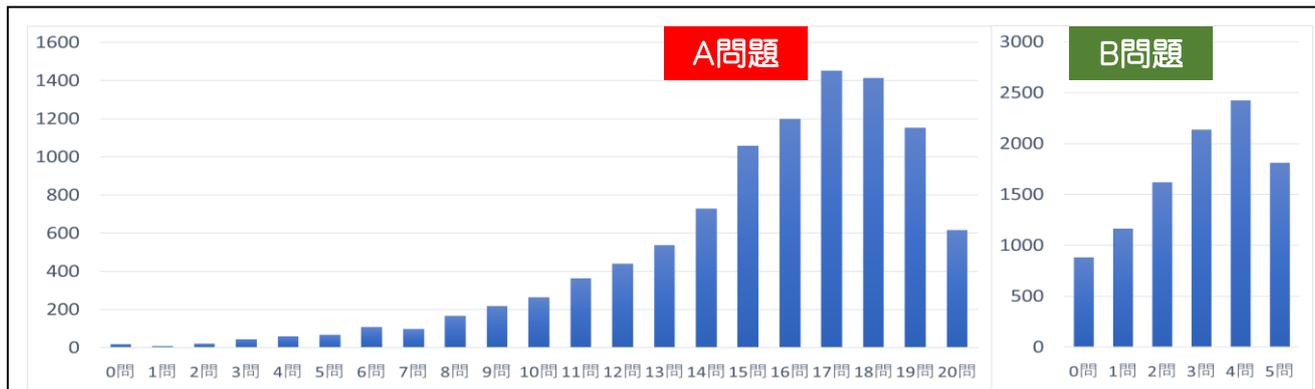
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、73.2%である。「数と計算」については、平均正答率が85.4%と高くなっている。一方、「量と測定」については、平均正答率が64.1%と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の5(2)と、平均正答率が低く、無解答率が高かったB問題の2(3)を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		76.7		58.9		85.4	64.1

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	(1) 小数の大きさ	小数の大小を不等号を使って表すことができる。	数と計算	95.5	0.3
	2		(2) 小数のひき算	小数の減法の計算ができる。	数と計算	87.8	0.4
	3		(3) 一億までの数	大きな数の加法の計算ができる。	数と計算	91.8	1.1
	4		(4) あまりのあるわり算	あまりのあるわり算の計算ができる。	数と計算	91.6	1.3
	5		(5) いくつ分	いくつ分をかけ算にして計算できる。	数と計算	94.2	0.7
	6		(6) 一億までの数	大きな数を数字で正しく表すことができる。	数と計算	71.0	1.5
	7		(7) 繰り下がりのある筆算	繰り下がりのある3桁の筆算のしかたについて理解している。	数と計算	65.9	2.8
	8	2	(1) 直方体の辺の数と頂点の数	直方体の辺の数を求めることができる。	図形	75.4	0.5
	9		(2) 三角形のしきつめ	しきつめた正三角形から、いろいろな大きさの正三角形の数を調べることができる。	図形	63.8	1.3
	10		(3) 二等辺三角形	円の特徴を正しく理解し、それを使って二等辺三角形をかき出すことができる理由を選択できる。	図形	66.4	1.9
	11	3	(1) かさ	およそのかさについて理解している。	図形	71.2	1.1
	12		(2) 長さの単位	kmとmの関係を使って、長さの換算ができる。	量と測定	53.5	2.3
	13		(3) 時間を求める	時計を見て、家を出発した時刻を求めることができる。	量と測定	76.5	2.3
	14	4	(1) 重さの単位	tとkgの関係を使って、重さの換算ができる。	量と測定	85.5	1.5
	15		(2) 重さを求める	kgをgになおしてりんごの重さの求め方を考えることができる。	量と測定	62.5	2.4
	16	5	(1) 問の数	問の数の求め方を考えることができる。	数量関係	81.9	2.1
	17		(2) 口を使った式	口を使ってわり算の式に表すことができる。	数量関係	39.5	4.1
	18	6	(1) 棒グラフの読み取り	棒グラフの縦・横の目盛りを読み取ることができる。	数量関係	82.4	5.3
	19		(2) 棒グラフのかき方	棒グラフを正しくかき出すことができる。	数量関係	92.2	4.2
	20		(3) 棒グラフの読み取り	文章と棒グラフを関連付けて考えることができる。	数量関係	85.9	4.1
B	21	1	(1) 実生活の場面における活用	球の性質を使って、箱の1辺の長さを求めることができる。	量と測定	52.6	5.3
	22		(2) 実生活の場面における活用	数量の関係を図に表すことができる。	量と測定	78.4	4.2
	23	2	(1) 実生活の場面における活用	かかる時間を見込んで電車の到着時刻を求めることができる。	数量関係	53.4	7.3
	24		(2) 実生活の場面における活用	所持金で買えない物を見つけ、その理由を説明することができる。	数量関係	70.4	7.3
	25		(3) 実生活の場面における活用	地図や資料をもとに道のりをもとめ、近い理由の説明ができる。	量と測定	39.9	8.8

特徴の見られた問題例 (小学校4年 算数)

A問題 5 (2) 平均正答率が低かった問題

カップケーキが同じ数ずつはいつているふくろが8つあります。カップケーキの数は、全部で48こです。
1ふくろのカップケーキの数を□こととして、わり算の式にかきましょう。



正答 (例) $48 \div 8 = \square$

ねらい	□を使ってわり算の式に表すことができる。	平均正答率(%)	39.5
		無解答率(%)	4.1

☆分析

【誤答例】

A $\square \times 8 = 48$ 、B $48 \div 8 = 6$ 、C $48 \div \square$

【正答率が低かった理由】

- わり算ではなく、かけ算にしている。
- □を使わずに、式をつくらせている。
- □を使って式をつくる学習の機会が限られていて、意味が分かっていなかったり、立式ができなかったりしている。

☆指導のポイント



- ◆ 「わり算の式にかきましょう。」のように、□を使った式の中でも、問いに合わせて答える学習も取り入れましょう。
- ◆ 解き方として□を用いた式が提案された後に、他の児童も同じ方法で解いてみる機会をもちましょう。

授業のアイデア

正答だけでなく、立式の間違ひを含め、議論する場を設定してみましょう。

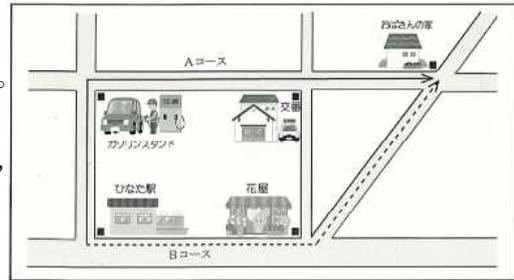
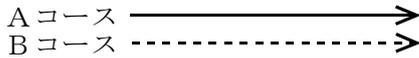
B問題 2 (3) 平均正答率が低く無解答率が高かった問題

ひさしさんは、おばさんとひなた駅で会うことができました。

ひなた駅から歩いて、おばさんの家まで行きます。ひさしさんは、おばさんの家までの道のりが近い方がよいと考えました。

Aコース、Bコースのどちらのコースを使う方が、おばさんの家に着くまでの道のりが近いですか。

かい答用紙の「えらんだコース」の□に、AかBのえらんだ方をかきましょう。また、そのわけをことばや式を使ってかきましょう。



ひなた駅から花屋 (550m)	ひなた駅からガソリンスタンド (400m)
交番からおばさんの家 (300m)	花屋から交番 (400m)
花屋からおばさんの家 (500m)	ガソリンスタンドから交番 (550m)

正答	選んだコース…Bコース	} 事実 } 理由
	わけ…(例) Aコースは、 $400\text{m} + 550\text{m} + 300\text{m} = 1250\text{m}$	
	Bコースは、 $550\text{m} + 500\text{m} = 1050\text{m}$ AコースよりもBコースの方が、200m短いから。	

ねらい	地図や資料をもとに道のりを求め、近い理由の説明ができる。	平均正答率(%)	39.9
		無解答率(%)	8.8

☆分析

【誤答例】

計算はできているが、理由を書いている。言葉の式、理由が、一部のみ答えられていて、完答していない。

【正答率が低く、無解答率が高かった理由】

- 話し合いはするが、自分の考えを書いて説明する機会が少ない。
- 事実は書けるが、理由を書けない。
- 問題の文章の量に慣れていない。

☆指導のポイント



- ◆ 話し合いだけでなく、自分の考えを書いて表現する機会をもちましょう。
- ◆ 話す手順(事実・理由)を教えましょう。
- ◆ 分かっている児童だけの発表で終わらないように、(同じでもよいので)別の児童にも事実や理由を書いたり、誰かに説明したりする機会をもちましょう。

授業のアイデア

数値を図にかき入れる、線でつなぐなどの活動を取り入れましょう。

4 小学校5年：算数

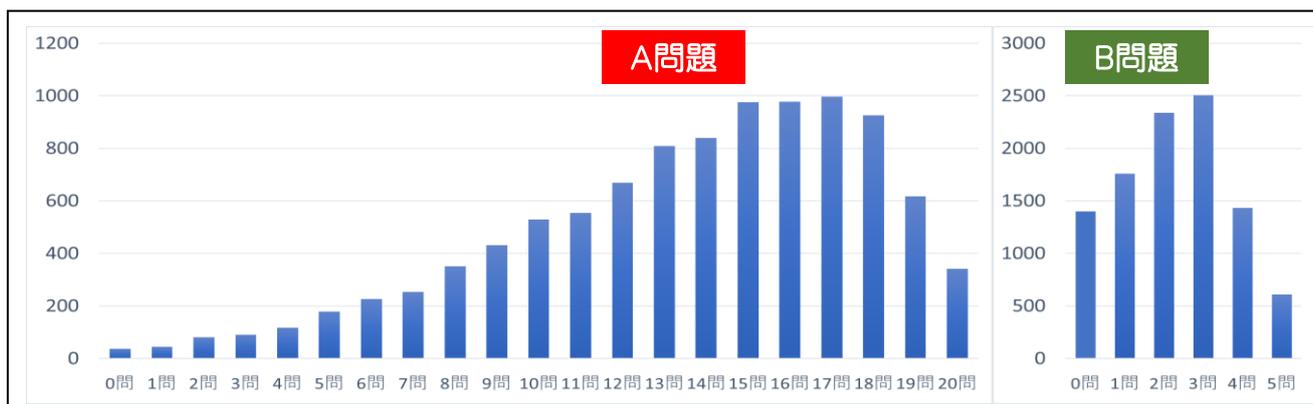
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**63.0%**である。「数量関係」については、平均正答率が**71.3%**と高くなっている。一方、「図形」については、平均正答率が**52.2%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**2** (2) と、A問題の**2** (3)、さらに、児童の定着が十分でなかったA問題の**1** (1)、(3)を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		67.5		45.2		63.9	56.6

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	(1)	小数の加法の計算	小数+整数の計算ができる。	数と計算	57.0	0.4
	2	(2)	整数÷整数	整数の除法における計算の確かめの方法を理解している。	数と計算	60.4	2.2
	3	(3)	小数のわり算	わり切れるまで計算することができる。	数と計算	50.1	2.0
	4	(4)	分数+分数	同分母の加法の計算ができる。	数と計算	86.4	0.8
	5	(5)	四則の混合した計算	四則の混合した計算の仕方を理解している。	数量関係	37.2	1.4
	6	(6)	数量の比較	2つの数量の違いを図で表すことができる。	数量関係	82.9	2.1
	7	(7)	小数÷整数	小数の除法における計算の確かめの方法を理解している。	数と計算	65.4	5.1
	8	(8)	四捨五入による概数の表し方	四捨五入をして一万の位までの概数に表すことができる。	数と計算	65.2	1.8
	9	(1)	分度器を使った角の大きさの測定	分度器を使って角の大きさを測定できる。	量と測定	79.2	1.2
	10	(2)	大きな面積	1aについて理解している。	量と測定	46.5	1.3
	11	(3)	複合図形の面積	複合図形の面積を求めることができる。	量と測定	44.0	3.6
	12	(1)	平行四辺形	平行四辺形の定義を理解している。	図形	89.5	1.5
	13	(2)	三角形のかき方	コンパスと定規を使って二等辺三角形を作図することができる。	図形	78.1	4.9
	14	(3)	直方体の面の形	直方体の面の形を理解している。	図形	58.5	3.3
	15	(1)①	資料の読み取り	資料から正しく情報を読み取ることができる。	数量関係	90.8	3.4
	16	(1)②	資料の読み取り	資料から正しく情報を読み取ることができる。	数量関係	78.9	3.5
	17	(2)	資料の読み取り	2つのことから調べる表について理解している。	数量関係	76.1	4.0
	18	(1)	変わり方のきまり	変わり方を表に書くことができる。	数量関係	93.5	4.0
	19	(2)	変わり方のきまり	変わり方のきまりを見つけ、□や△を使って式に表すことができる。	数量関係	53.4	7.3
	20	(3)	変わり方のきまり	正三角形の数とまわりの長さの関係を使って、答えを求めることができる。	数量関係	57.3	8.0
B	21	(1)	式の読み方	答えをどのように求めようとしているか、式から読み取ることができる。	数と計算	73.3	13.6
	22	(2)	式の読み方	図から、どのように立式したのかを考え、説明することができる。	数と計算	69.3	3.6
	23	(3)	式の読み方	式から考え方を読み取り、言葉や数を使って説明することができる。	数と計算	48.2	17.0
	24	(1)	図形の定義の活用	ひし形の定義を理解している。	図形	13.6	20.8
	25	(2)	図形の定義の活用	円の半径との関係に気づき、答えを求めることができる。	図形	21.4	24.2

特徴の見られた問題例 (小学校5年 算数)

A問題 2 (2) 平均正答率が低かった問題

1 a (1アール) と同じ面積になる正方形の1辺の長さを、次のア～オから1つ選び、記号で答えましょう。

ア 1 cm イ 10 cm ウ 1 m
エ 10 m オ 100 m

正 答	エ
-----	---

ねらい	1 a について理解している。	平均正答率 (%)	46.5
		無解答率 (%)	1.3

☆分析

【誤答例】

オ

【正答率が低かった理由】

- 1 a は 100m^2 であるので、100 というイメージが強く残っていた。
- 1 a が児童にとって身近にないため、定着しづらい。
- 覚えるべき内容と導き出す内容を指導者側が混同している。1 a の一辺の長さ 10 m は知識として知っておく内容で、 100m^2 は導き出す内容として捉えておきたい。

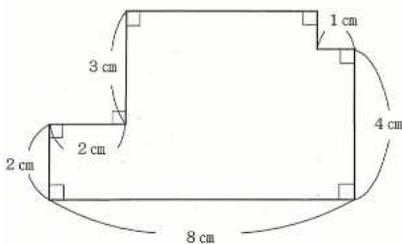
☆指導のポイント



- ◆ 1 a を意図的に日常で使う場面を設けてみましょう。(例：1 a ドッジボール等)
- ◆ 実際に運動場に出てラインを引き、1 a を体感できる場を設定しましょう。
- ◆ 家庭・地域を巻き込んで、a という単位に触れる機会を増やしましょう。

A問題 2 (3) 平均正答率が低かった問題

次の図形の面積を求めましょう。



正 答	33 cm^2
-----	------------------

平均正答率 (%)	44.0
無解答率 (%)	3.6

ねらい 複合図形の面積求めることができる。

☆分析

【誤答例】

分割して考え、重複して計算したり、一部をひき忘れて計算したりしていた。

【正答率が低かった理由】

- 長さが表示されていない辺の長さが分からなかった。
- 筋道を立てて、順序よく整理し、処理する力が身に付いていない。
- 授業においては、L字型の図形の面積を、一般的に①分割方法、②全体から部分を引く方法を中心に展開している。しかし、その学びを生かして展開、応用問題に取り組む時間の確保が不足していた。

☆指導のポイント



- ◆ L字型の問題から、発展した問題に取り組めるように、単元計画を工夫しましょう。
- ◆ 分割したときには、図と式を対応させて解決させていきましょう。
- ◆ 辺の長さをあえて提示せず、児童に必要な長さを考えさせるなど、導入を工夫してみましょう。
- ◆ まとめの在り方 (色々な解き方がある→長方形を基にして考える 等) を検討しましょう。
- ※ 児童から引き出す発問等の工夫が必要になります。

A問題 1 (1)(3) 児童の定着が十分でなかった問題

(1) $10.7 + 6$ を計算しましょう。

平均正答率 (%)	57.0
無解答率 (%)	0.4

(3) $7 \div 5$ をわり切れるまで計算しましょう。

平均正答率 (%)	50.1
無解答率 (%)	2.0

☆指導のポイント



- ◆ (1) は、位をそろえて計算することを確実にできるように指導しましょう。
- ◆ (3) は、小数点の処理を確実にできるように指導しましょう。

Ⅲ 中学校の分析結果

- 1 中学校 1 年：国語
- 2 中学校 2 年：国語
- 3 中学校 1 年：社会
- 4 中学校 2 年：社会
- 5 中学校 1 年：数学
- 6 中学校 2 年：数学
- 7 中学校 1 年：理科
- 8 中学校 2 年：理科
- 9 中学校 2 年：英語

1 中学校1年：国語

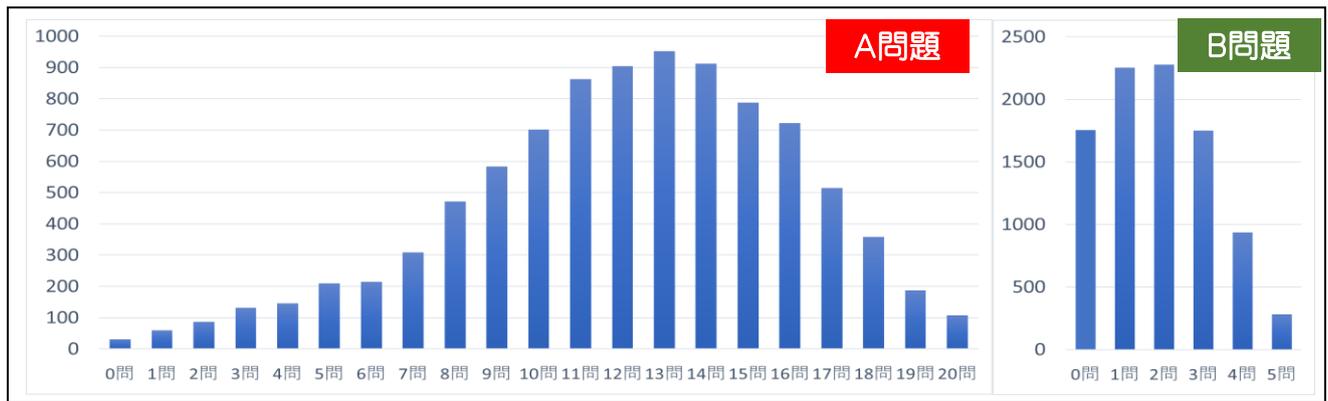
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**55.5%**である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、平均正答率が**72.0%**となっている。一方、「書くこと」については、平均正答率が**33.3%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**二問二**と、経年変化で改善が見られた**五問三**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		60.1		37.0		49.3	33.3

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問	小問					
A	1	1	1	内容の把握	文章の展開に即して、登場人物の心情をとらえることができる。	読むこと	80.8	0.2
	2		2	内容の把握	文章の展開に即して、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することができる。	読むこと	56.7	17.2
	3		3	内容の把握	文章の特徴や、その効果をとらえることができる。	読むこと	69.7	1.0
	4	2	1	文脈の把握・語句の理解	文章の展開や文脈に即して、適切な語(接続語)を書くことができる。	読むこと	30.4	7.4
	5		2	内容の把握	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。	読むこと	19.2	11.5
	6		3	文章の構成・組み立ての把握	文章の展開に即して、構成及び組み立てをとらえることができる。	読むこと	41.9	3.1
	7	3	1	話の構成	事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話すことができる。	話すこと・聞くこと	64.0	2.3
	8		2	話し合い内容の把握	話し手の意図をとらえながら聞くことができる。	話すこと・聞くこと	34.5	14.3
	9	4	1	広告の編集	目的や意図に応じて、構成の工夫をとらえることができる。	書くこと	49.6	4.0
	10		2	広告の編集	読み手を意識して、構成を工夫するという視点をもつことができる。	書くこと	35.6	15.1
	11	5	1-(1)	漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	88.3	5.1
	12			漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	91.8	4.1
	13		2-(1)	漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	58.1	11.5
	14			漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	76.5	8.8
	15		3	漢字辞典の用法	漢字辞典の部首索引で調べることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	44.9	5.8
	16		4	慣用句の意味	文脈に即して、慣用句を用いることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	80.0	5.8
	17		5-(1)	主語・述語の関係	文脈に即して、主語をとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	72.0	6.5
	18			主語・述語の関係	文脈に即して、述語をとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	78.0	6.7
	19		5-(2)	熟語の構成	語句の構成について理解を深め、由来などに関心をもつことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	50.2	8.4
	20		5-(3)	楷書の筆遣い	楷書の右払いの筆遣いを的確にとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	80.0	8.2
B	21	1	1	情報の読み取り	百人一首や俳句等を読み比べ、言葉のリズムを読み取るすることができる。	読むこと	50.6	9.9
	22		2	情報の活用	読み取った内容を活用し、短歌をつくることができる。	書くこと 読むこと	33.2	12.5
	23	2	1	情報の読み取り	目的に応じて、資料の情報を的確に読み取ることができる。	読むこと	28.7	17.3
	24		2	情報の読み取り	複数の情報を関連付けて的確に読み取ることができる。	読むこと	57.5	7.1
	25		3	目的に応じた記述	目的に応じて、伝えたい内容を効果的に書くことができる。	書くこと	14.8	19.8

特徴の見られた問題例 (中学校1年 国語)

A問題 問二 平均正答率が低かった問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。①～⑤は段落の番号である。

① 近年、通信技術や交通手段の発達によって、世界各国の間で情報のやりとりや人の行き来がさかんである。わたしたちのもとへも、海外のニュースや映像が、テレビや新聞、雑誌などを通じてどんどん入ってくる。また、旅行や勉強、仕事で外国に行く人、外国からやってくる人の数もますます増え続けている。こうして、知らない国の生活や文化にふれたり、あるいは、日本にやってきた外国の人とじかに接したりする機会が多くなってきた。

② ところで、外国の人々と接するときには、日本人どうしの場合とちがって、行きがちがいが誤解が起こりやすい。①、外国の人には宗教上の理由から肉を食べない人がいる。そんな人にすぎ焼きを「ちそうしよう」としても、意味がないどころか、さらわれてしまう。また、ヨーロッパやアメリカでは、スープを飲むときに音をたてるのはマナーに反する。だから、それらの国の人たちは、日本人がうどんやそばを食べるときに音をたててすすめるのを見て、下品だと感じるようになる。そういう行きがちがいが誤解をなくし、おたがいに理解し合うには、どういうことに気をつければよいのだろうか。

③ まず思いうかぶのは言語の問題である。人間は、事実や自分の考えを相手に伝えることによって、おたがいに理解し合うが、そのとき最も大きな役割を果たすのは言葉である。相手の言語を知らなければ、話は通じない。

④ 言葉が通じなくても、身ぶりがその代用となるという意見もある。しかし、残念ながら身ぶりも万国共通というわけにはいかない。①、こちらへいらつしやいと手招きする場合、ヨーロッパやアメリカではのひらを上に向けて指を曲げる。日本ではのひらを下に向けた「おいでおいで」は、ヨーロッパ・アメリカでは、「バイバイ」、または、人を遠ざけるしとよく似ており、②誤解されるおそれがある。このように、国や風習によってさまざまなちがいがあるので、身ぶりでも誤解の生じることがある。

⑤ だれかに、自分の子どもを「やさしい、親切な、いいお子さんですね」とほめられた場合、日本人ならたいてい「いいえ、とんでもない」とけんそんしてみせる。しかし、①アメリカ人であれば、「ええ、本当に、やさしくて親切な子なんですよ」などと答えるという。それがアメリカではふつうの答えなのだと思わなければ、多くの日本人は、よその人に向かって自分の子どもをほめるなんてあつかましい、と感じることになるだろう。言葉の意味が正しく理解できても、その国の人々の考え方や表現のしかたについての知識がないと、やはり誤解が起こる。

(佐竹秀雄「外国の人と理解し合うために」による)

問二 文章中の——線②「誤解されるおそれ」とありますが、その理由が述べられている三十文字以上、四十五字以内の一文を、文章中から探し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

正 答 ①はじめ このように ～ ⑤終わり とがある。

ねらい	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。	平均正答率(%)	19.2
		無解答率(%)	11.5

☆分析
正答率は、19.2%であり、A問題の中で最も正答率が低い。傍線②の後の「このように」という言葉が前文の言い換えであることが理解できていないことが考えられる。また、問題文にある「一文」という学習で使う用語が正確に理解できておらず、文の途中からの抜き出しや句点まで抜き出していない解答が多く見られた。

☆指導のポイント
文章の内容を的確に押さえるために、話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述に注意して指導することが重要である。さらに、「指示する語句」や「一文の抜き出し」といった点についても日頃から丁寧に指導していくことが必要である。

各単元末に掲載されている「言葉の力」(東京書籍)や「たいせつ」(光村図書)を日頃から意識して授業を行い、子どもたち自身が活用できる授業を行うことが必要ですね。



説明的な文章では、要旨が把握できるような指導をしよう!

要旨をとらえさせる際には、段落相互の関係や書き手の考え方を細かく見ていく前に、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄などを子どもたちにとらえさせるような個人作業の時間を設定し、適宜修正を加えさせるような授業を行うのも有効です。

特徴の見られた問題例 (中学校1年 国語)

A問題 問三 経年変化で改善が見られた問題

	<p>エ ウ イ ア 横 桜 因 囲</p>	<p>問三 の漢字を調べる場合、部首と記</p>	<p>問三 の漢字を調べる場合、部首と記</p>	<p>問三 の漢字を調べる場合、部首と記</p>	<p>問三 の漢字を調べる場合、部首と記</p>
--	----------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------	------------------------------

正 答	イ				
-----	---	--	--	--	--

ねらい	漢字辞典の部首索引で調べることができる。	平均正答率 (%)	44.9
		無解答率 (%)	5.8

☆分析

正答率は、44.9%であり、昨年度と比較して7.5ポイント上昇した。漢字辞典の使い方、部首索引を使って漢字を調べることについて改善が見られたことが成果である。

漢字辞典の使い方については、昨年度、一昨年度とA問題の中で最も正答率が低かったことを考えると、一定の成果が見られた。一方で、無解答率が5.8%と昨年度と比較して4ポイント上昇したという点で見ると、辞典の活用について十分な理解が図られずに解答できなかった生徒が増加していることが挙げられる。

☆指導のポイント

漢字指導や書写の時間に部首や筆順についての指導を行うことに合わせて、漢字辞典の三つの引き方(部首、音訓、総画)を理解させることが必要である。その際、実際に自分で新出漢字を調べるために辞典を引く活動を授業に取り入れたり、各辞典に記載されている「使い方」や「使用方法」などを活用したりして、定期的に指導していくことが重要である。



生徒が辞書や辞典に触れる機会を意図的に作り出すことが大切です。辞書や辞典を活用することを目的にせず、語彙を増やしたり、言葉の面白さや興りについて調べたりすることなど、生徒の興味や関心があることと関連付けながら辞書指導をすることが重要となります。

辞書の活用のためには！

辞書の活用のためには、まず指導者自身が日常的に辞書で調べる姿を生徒に見せることや授業で辞書を身近に置くことが大切になります。そのような環境づくりから始めていきましょう。

2 中学校2年：国語

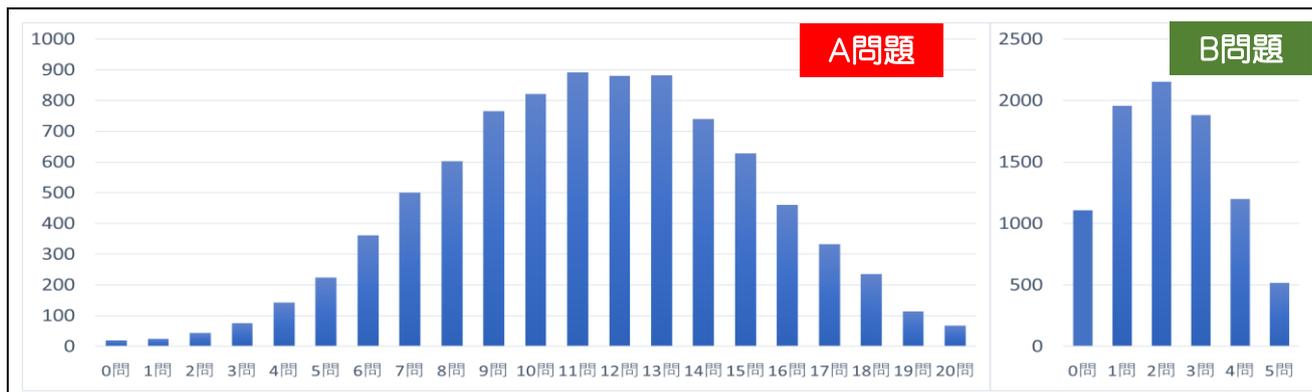
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**54.2%**である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、平均正答率が**63.7%**となっている。特に、「書くこと」については、平均正答率が**38.6%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**二問一及び問二**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
		56.8		43.8		58.4	38.6

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)	
	番号	大問	小問						
A	1	1	1	内容の把握	文章の構成や展開に即して、登場人物の心情をとらえることができる。	読むこと	53.9	0.2	
	2		2	語句の意味の理解	文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解することができる。	読むこと	52.0	3.7	
	3		3	内容の把握	場面の展開や登場人物などの描写に注意して、内容を理解することができる。	読むこと	84.6	5.5	
	4	2	1	文章の構成・組み立ての把握	文章の構成や組み立てをとらえることができる。	読むこと	39.1	0.8	
	5		2	内容の把握	文章の展開に即して、内容を的確にとらえることができる。	読むこと	21.5	0.5	
	6		3	内容の把握	文章の展開に即して、内容を的確にとらえることができる。	読むこと	26.5	6.6	
	7	3	1	文章の推敲	文章を読み返して、伝えたい内容が書き表されているか検討することができる。	書くこと	38.6	18.8	
	8		2	文章の記述	文章を書くに当たり、工夫点を理解することができる。	書くこと	65.4	0.9	
	9	4	1	発言の意図	話し合いの際の適切なメモの取り方について理解することができる。	話すこと・聞くこと	59.8	1.2	
	10		2	伝達内容の確認	話し合いの際に、適切な進行のために確認すべきことについて理解することができる。	話すこと・聞くこと	56.9	14.7	
	11	5	1	1-(1)	漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	94.3	2.0
	12			1-(2)	漢字の読み	文脈に即して、漢字を正しく読むことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	96.2	1.1
	13		2	2-(1)	漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	60.1	6.7
	14			2-(2)	漢字の書き	文脈に即して、漢字を正しく書くことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	36.1	27.8
	15		3	漢字の部首	漢字の部首を正しく理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	43.9	1.7	
	16		4	故事成語	故事成語を文脈の中で正しく使うことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	72.0	1.5	
	17		5	主語・述語の関係	主語・述語の関係を正しくとらえることができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	64.1	4.9	
	18		6	漢字の成り立ち	漢字の成り立ちについて正しく理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	90.6	1.4	
	19	7	歴史的仮名遣い	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	47.1	3.4		
	20	8	行書の特徴	漢字の行書の基礎的な書き方を理解することができる。	伝統的な言語文化と国語の特質	32.3	2.3		
B	21	1	1	情報の読み取り	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取ることができる。	読むこと	65.5	1.6	
	22		2	情報の活用	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取り、それを活用して文章を書くことができる。	書くこと	27.4	9.8	
	23	2	1	情報の読み取り	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取ることができる。	読むこと	40.8	14.5	
	24		2	情報の読み取り	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取ることができる。	読むこと	62.3	4.6	
	25		3	情報の活用	目的に応じて、資料から必要な情報を読み取り、それを活用して文章を書くことができる。	書くこと	22.8	24.1	

特徴の見られた問題例 (中学校2年 国語)

A問題 問一 平均正答率が低かった問題

問一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(1)～(5)は、段落の番号である。)

① かつて田んぼは用水路で水を引いていました。その用水路は田んぼとほぼ同じ高さ
 ② 田んぼから出た水が隣の田んぼに入る、という構造になっていたものもありました。
 そのような用水路は地形に応じて曲がっており、深さも一定でないもので、水の流れに
 ③ も微妙に違いがあり、それに応じて違う植物が生えていました。昔の子供が夢中で魚
 ④ 捕りをしたのは、このような用水路でした。秋になって田んぼから水が抜かれても用
 ⑤ 水路には水が残っており、くぼみが「魚だまり」となって魚が生きていたのです。
 ところが、一九六〇年代から始まった農業基盤整備事業によって、自然の地形に
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼに大きな変化が生じました。かつて人力で営々と築かれて
 きた田んぼは、大規模な土木工事によって完全に造り変えられてしまったのです。田
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼの水が管理しやすいうように、用水路はU字管というコンクリート管にされました。
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼの形がU字型なのでこう呼ばれます。U字管の機能は水田に水を運ぶことでは
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼから、それ以外のものは必要ありません。その結果、水を流す時は洪水のように大量の
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼの水が勢いよく流れます。

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが隠れる所もなければ、カエルが卵を産む所もありません。用水路は田んぼから
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが効率的に排水するために、水田との高さの差が大きくなるように造られました。この
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼがため、水を抜くと田んぼは完全に干上がりません。その結果、夏の「洪水」と冬の
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが「 」が繰り返されることになりました。これでは生きていけない動物はいません。
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが日本の農業は稲作が中心ですが、それは米を巨大なポットのようなかんじで効率的に作
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼがことだけではありませんでした。毎日の営みの中で米作りを中心置きながらも、
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが家畜を飼い、裏山から肥料となる枯れ葉を集め、時々ドジョウやフナを捕るなど、実
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼがにさまざまな営みの中で行われたものでした。また、田植えの時には若い女性が晴れ
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼがを着て早苗を植え、近所の人が助け合って田植えや稲刈りをするという社会の営み
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼがでもありました。そして先祖から引き継いだ土地に祈りをささげ、収穫物に感謝をさ
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼがさげるといふ心に支えられたものだったはずで、それは工場や米という名の製品を
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが作るのとはほど遠い営みでした。

② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼがしかし、この土木工事は②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが意味の深さを私たちは考え続けなければならぬと思います。
 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① 田んぼが(高槻成紀「生物が消えていく」による)

正 答	イ
-----	---

ねらい	文章の構成や組み立てをとらえることができる。	平均正答率 (%)	39.1
		無解答率 (%)	0.8

☆分析
 正答率は、39.1%であり、「読むこと」の領域の問題の中で3番目に正答率が低い。
 説明的な文章における文章の構造などを正しくとらえることが課題である。

☆指導のポイント
 説明的な文章を指導する際に、内容の理解と並行して構造の理解が図られるように指導を
 することが大切である。そのためには、生徒が文章の構成や組み立てをとらえられるように段落
 とに内容をとらえたり、段落相互の関係を押さえたりするような指導の工夫をする必要がある。

説明的な文章を指導する際には、単に教材の内容を理解させる
 だけではいけません。筋道を立てて考える力を養えるよう、書き手
 のものの見方や考え方に触れることを通して、生徒自身が何を理解し、
 考えたのかを報告させたり、文章にまとめさせ（モデルを示すこ
 とも考えられる）たりするような指導をすることが効果的です。



報告したり文章にまとめたりすることについて

報告したり文章にまとめたりすることで、自分自身の考えを整理することができます。
 例えば、文章を読んで得た知識や考えを、学級等で報告したりノートやレポート等にまとめ
 たりすることが効果的です。その際に、互いの考えを共有し、意見交換することで、更に自分
 の考えや教材文に対する理解が深まることが期待できます。

特徴の見られた問題例 (中学校2年 国語)

A問題 問二 平均正答率が低かった問題

問二 次(1)の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(1) (5)は、段落の番号である。

① かつて田んぼは用水路で水を引いていました。その用水路は田んぼとほぼ同じ高さ
にあり、微妙な高さの違いを利用して水の入り口と出口が造られていました。一つの
田んぼから出た水が隣の田んぼに入る、という構造になっているものもありました。
そのような用水路は地形に応じて曲がっており、深さも一定でないのです。水の流れに
も微妙な違いがあり、それに応じて違う植物が生えていました。昔の子供が夢中で魚
捕りをしたのは、このような用水路でした。秋になって田んぼから水が抜かれても用
水路には水が残っており、くぼみが「魚だまり」となって魚が生きていたのです。

② ところが、一九六〇年代から始まった農業基盤整備事業によって、自然の地形に
じて造られていた田んぼに大きな変化が生じました。かつて人力で営々と築かれて
きた田んぼは、大規模な土木工事によって完全に造り変えられてしまったのです。田
んぼの水が管理しやすいうように、用水路はU字管というコンクリート管にされました。
断面の形がU字型なのでこう呼ばれます。U字管の機能は水田に水を運ぶことではな
ら、それ以外のものは必要ありません。その結果、水を流す時は洪水のように大量の
水が勢いよく流れます。

③ 魚が隠れる所もなければ、カエルが卵を産む所もありません。用水路は田んぼから
効率的に排水するために、水田との高さの差が大きくなるように造られました。この
ため、水を抜くと田んぼは完全に干上がりします。その結果、夏の「洪水」と冬の
「氷」が繰り返されることになりました。これでは生きていけない動物はいません。

④ 日本の農業は稲作が中心ですが、それは米を巨大なポットのような所で効率的に作
ることだけではありませんでした。毎日の営みの中で米作りを中心に置きながらも、
家畜を飼い、裏山から肥料となる枯れ葉を集め、時々ドジョウやフナを捕るなど、実
にさまざまな営みの中で行われたものでした。また、田植えの時には若い女性が晴れ
着を着て早苗を植え、近所の人が助け合って田植えや稲刈りをするという社会の営み
でもありました。そして先祖から引き継いだ土地に祈りをささげ、収穫物に感謝をさ
さげるといふ心に支えられたものだったはずで、それは工場や米という名の製品を
作るのとはほど遠い営みでした。

⑤ しかし、この土木工事は②のようなことを無視したものでした。そのことの
意味の深さを私たちは考え続けなければならないと思います。
(高槻成紀「生物が消えていく」による)

問二 []に入る言葉として、最も適当なものを、次のア～エ
から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 氷原 イ 寒冷 ウ 砂漠 エ 温暖

正 答	ウ
-----	---

ねらい	文章の展開に即して、内容を的確にとらえることができる。	平均正答率 (%)	21.5
		無解答率 (%)	0.5

☆分析
正答率は、21.5%であり、全問の中で最も正答率が低い。文章の内容が的確にとらえられていないことや語句のもつ意味が正確に理解できていないことが課題である。

☆指導のポイント
語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して使わせたり、読み取ったりさせるような指導をすることが大切である。そのためには、文脈上における意味を具体的かつ個別的にとらえ、その語句が文章中で果たしている役割を考えさせる必要がある。

本などを読んで新しく出会った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考える習慣を付けることなどが大切です。また、文脈上の使い方に疑問をもたせたり、その使い方を吟味させたりすることも考えられます。実際に調べた語句をノートに蓄えさせたり、短文を作らせたりすることを通して、自分で使えるようにすることが重要です。



語感を磨き語彙を豊かにしよう！！

自分の語彙を量と質の両面から充実させることで、語感が磨かれ、語彙を豊かにすることができます。意味を理解している語句を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすことで、語句の意味や使い方に対する認識が深まり、生徒自身の語感が磨かれ、語彙の質を高められることが期待できます。

3 中学校1年：社会

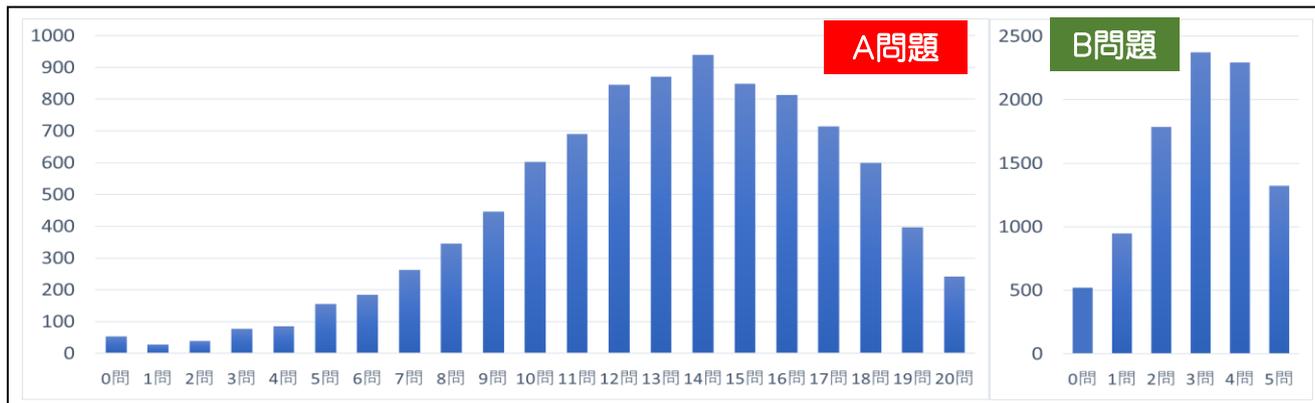
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、64.1%である。「地理的分野」については、平均正答率が69.4%と高くなっている。一方、「歴史的分野」の近現代以降は、平均正答率が46.0%と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低く、無解答率が高かったA問題の37と、平均正答率が低かったB問題の22を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
	65.3	59.4		69.4	63.1	62.3

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



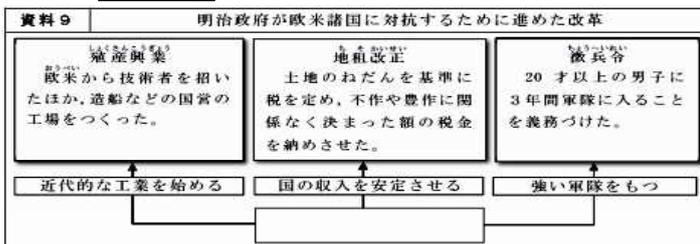
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	都道府県の名称と位置	静岡県に隣接する県について理解している。	地理的分野	45.1	0.6
	2		水産業のさかんな地域	資料から、漁業別の生産量や働く人の数に変化している状況を読み取ることができる。	地理的分野	80.7	0.2
	3	2	1 太平洋ベルト	太平洋ベルトについて理解している。	地理的分野	40.3	11.6
	4		2 日本の工業生産の特色	日本の工業種類別の工業生産額に関する資料から、変化のようすを読み取ることができる。	地理的分野	88.6	1.7
	5	3	日本の工業生産の特色	日本の工場の特徴を、工場数や働く人の数などの資料から読み取ることができる。	地理的分野	92.4	1.7
	6	3	1 縄文時代と弥生時代のくらし	縄文時代と弥生時代のくらしについて理解している。	歴史的分野	86.7	0.2
	7		2 聖徳太子の政治	十七条の憲法と法隆寺について、聖徳太子と関連付けて理解している。	歴史的分野	75.7	5.2
	8		3 封建制度のしくみ	鎌倉時代における将軍と御家人との関係について理解している。	歴史的分野	72.2	0.7
	9		4 室町文化	室町時代の足利義満のころ栄えた文化の特色を理解している。	歴史的分野	81.9	0.8
	10		5 秀吉と天下統一	秀吉の天下統一について理解している。	歴史的分野	47.5	12.1
	11		6 町人の文化と新しい学問	江戸時代後期の新しい文化や学問について理解している。	歴史的分野	81.7	1.2
	12		7 明治政府の諸政策	明治政府が欧米諸国に対抗するために進めた諸改革について理解している。	歴史的分野	26.7	22.8
	13		8 条約の改正	ノルマントン号事件と条約改正の関係について理解している。	歴史的分野	49.1	2.0
	14		9 太平洋戦争	日本が満州に勢力を広げていったできごとや原子爆弾の投下について理解している。	歴史的分野	67.8	9.4
	15		10 新しい日本、平和な日本へ	戦後から現代までの主な出来事について理解している。	歴史的分野	40.2	1.6
	16	4	1 三権分立	三権分立について理解している。	公民的分野	43.6	9.0
	17		2 国の政治のしくみ	国の政治のしくみのうち、内閣の働きについて理解している。	公民的分野	56.4	4.7
	18		3 国際連合のしくみ	国際連合の機関の一つであるユニセフについて理解している。	公民的分野	78.0	1.9
	19	5	1 日本国憲法の三つの原則	日本国憲法の三つの原則について理解している。	公民的分野	83.2	2.8
	20		2 国民の義務	国民の義務について理解している。	公民的分野	68.4	2.2
B	21	1	1 明治時代の日本の貿易	明治時代の20年間のうちに綿糸の輸出が大きく増えた理由を調べるための学習問題を設定することができる。	歴史的分野	45.3	9.1
	22		2 明治時代の日本の貿易	明治時代に綿糸の輸出が増えた理由について、資料から考察し、仮説を設定することができる。	歴史的分野	59.9	5.3
	23		3 明治時代の日本の貿易	綿糸の輸出が増えた理由について、設定した仮説を検証するために必要な資料を選択することができる。	歴史的分野	85.3	2.4
	24	2	1 私たちのくらしと日本の政治	バリアフリーが進んでいる理由を調べるために、必要な資料を選択することができる。	公民的分野	78.1	2.4
	25		2 私たちのくらしと日本の政治	日本の選挙における課題について、資料や会話の内容から考察することができる。	公民的分野	28.5	9.2

特徴の見られた問題例（中学校 1 年 社会）

A問題 ③ 7 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題

7 資料9は、明治政府がイギリスやアメリカなどの欧米諸国に対抗するための政策として進めたさまざまな改革をまとめたものです。 に入る適切な政策名を、それぞれの改革の説明から考えて、漢字4字で答えなさい。



ねらい	明治政府が欧米諸国に対抗するために進めた諸改革を理解している。	正答	富国強兵	平均正答率(%)	26.7
				無解答率(%)	22.8

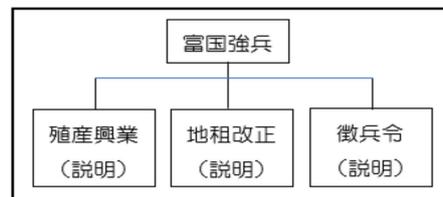
☆分析

- 平均正答率が低く、無解答率は高くなっている。歴史的事象を説明するために必要な知識を解答する問題であることを考えると、さらに高い正答率が求められる。従って、歴史的事象を関連付けたり、統合したりして説明する学習経験が不足していると考えられる。

☆指導のポイント

- 明治政府が行った改革を、構造的に捉えることができるような板書の工夫を図る必要がある。
- 1問1答で個別の知識を問うだけでなく、知識を活用して説明させるような発問を取り入れる必要がある。
- 学習問題に対するまとめを、図式化したり、文章でまとめたりする学習を取り入れる必要がある。

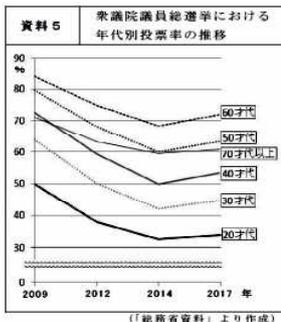
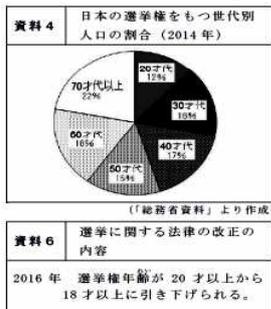
【構造的な板書を心掛けよう！】



B問題 ② 2 平均正答率が低かった問題

2 真也さんたちのクラスでは、他にも法律が暮らしを支えていることはないか調べました。そこで、真也さんのグループでは、資料4～6を集め、資料をもとに話し合いました。

グループでの話し合いの内容の に入る真也さんの発言について、「投票数」「意見」の2つの語句を使って、適切な内容を答えなさい。



真也さん: 資料4から、60才以上の世代の人が、選挙権をもつ人口の40%をしめていることが分かるね。

美紀さん: 資料5から、年齢の高い人の方が、選挙で投票する割合が高いことが分かるよ。

真也さん: そうなると、年齢の高い人の投票数が多くなることになるよ。年齢の高い人が投票した立候補者が、選挙で選ばれた代表者になりやすくなるね。

真也さん: そう考えると、資料6から、 ために、18才から選挙することができるようにしたとも考えられるよ。

美紀さん: そうだね。私も将来選挙に行って投票するよ。だって、法や政治が私たちの暮らしを支えていることが分かったからね。

ねらい	日本の選挙における課題について、資料や会話の内容から考察することができる。	平均正答率(%)	28.5
正答	(例) 若い人たちの投票数を増やし、若い人たちの意見を政治に反映させる。	無解答率(%)	9.2

☆分析

- 1つの資料だけの読み取りで解答している。情報過多の問題で必要な情報を選択・整理することができていないと考えられる。
- B問題の形式に慣れていなかったり、与えられた時間の中で資料を十分に読むことができていなかったりしていると考えられる。

☆指導のポイント

- 条件に応じて解答することや情報過多の問題に慣れる。
- 学習問題の解決に必要な情報を選択し、その情報を関連付けたり整理したりする活動を取り入れる。

◆教師の授業づくりのポイント◆

- ① 本時の学習後の児童生徒の姿（ゴールイメージ）は？
 - ※ 学習指導要領に即した、本時の目標、評価方法、評価場面の明確化
- ② そのために、どのような「まとめ」が理想か？
- ③ 理想とする「まとめ」に向かうために、どのような「学習問題」を設定するか？
- ④ 児童生徒が「学習問題」を解決するために、学習指導過程はどうあればよいか？
 - ア 導入で問題意識をもたせるために、どんな資料を使うか。
 - イ 展開の活動をどうするか。（資料の読み取り、事象の比較・関連付け、話し合い、発表）
 - ウ 終末の活動をどうするか。（児童がまとめる、振り返る）
- ⑤ 本時のねらいに迫るための発問をどこで、どう問うか？
- ⑥ その他にも配慮することは？
 - ※ 資料の読み取りと協議のつながり、資料の読み取り方の提示
資料を取捨選択、資料提示のタイミング



「社会的事象等について調べまとめる技能」（小学校学習指導要領解説社会編 P152、中学校学習指導要領解説社会編 P186）も参考になるよ。

- ◇ 児童生徒の思考の流れに沿った問題解決的な学習を中心とした学習過程を工夫する。
- ◇ 「◆教師の授業づくりのポイント◆」を生かして、教師が学習の展開を計画し、児童生徒の思考の流れに沿って授業を展開していく。

〈本時の目標〉 国民権の一つである選挙と自分たちの生活との関連や課題について考えたことをまとめることができる。

導入段階

- ・ 疑問をもたせるような資料を提示し、その資料に関する疑問について、児童生徒が発言したり、つぶやいたりした言葉をもとに、自分たちが解決したい内容となる学習問題を設定していく。

資料 6 「選挙に関する法律の改正の内容」などを提示し、疑問をもたせる。



〈学習問題〉

なぜ、選挙権年齢が20才以上から18才以上に引き下げられたのだろうか。

展開段階

- ・ どの資料をもとに調べていくのかを全体で確認し合う。
- ・ 資料にある事実を読み取らせる。（教師の説明も含む。）

資料 4 「日本の選挙権をもつ世代別人口の割合」
 資料 5 「衆議院議員選挙における年代別投票率の推移」

- ※ 写真、絵、グラフなどのデータ、言葉、文章
- ・ 複数の資料を比較して考えさせたり、関連付けて考えさせたりする。
- ・ 話し合いや発表をさせる。（個→ペア→全体）
- ・ 資料や話し合いをもとにして、自分の考えをまとめさせる。
例：「資料○と△より、□ということが考えられる（言える）。」
- ※ 必要に応じて、「つまり、◇◇である。」

終末段階

〈まとめ〉
若い人たちの投票数を増やし若い人たちの意見を政治に反映させるため。

国民権の一つである選挙と自分たちの生活との関連や課題について、「意見」「投票数」のキーワードを使って、まとめを書くことができる。〈ノート〉【評価】

- ・ 本時の学習を振り返って、本時の学びについて自分の言葉でまとめる。
例：「～に気付いた、～が分かった、～について調べたい、～だろうか」

4 中学校2年：社会

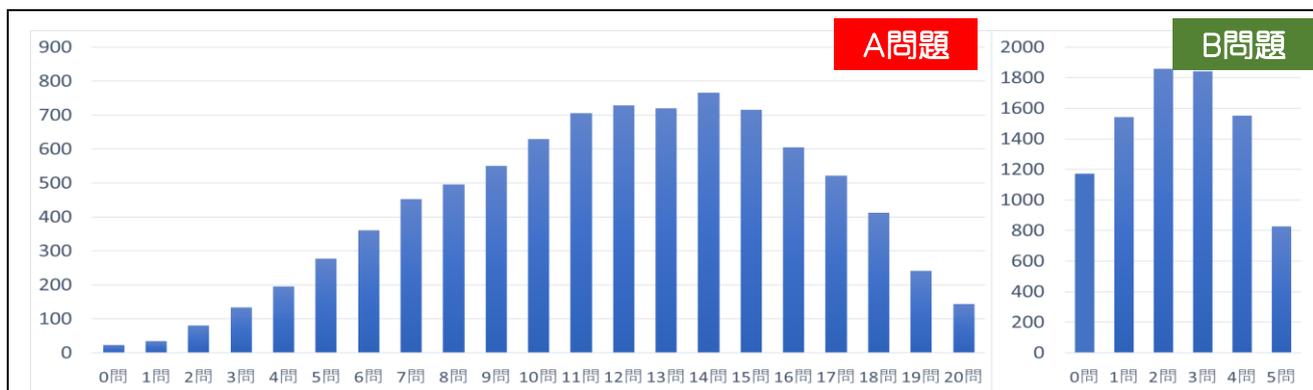
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**56.9%**である。「**地理的分野**」は**58.1%**であり、「**歴史的分野**」よりもやや高い平均正答率であった。特に、「**世界の地域構成**」の「**世界の姿**」については、平均正答率が**70.5%**と高くなっている。「**歴史的分野**」については、正答率が高いにもかかわらず、無解答率の高い問題が数問見られた。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かった**A問題の15**と、平均正答率が低く、無解答率が高かった**B問題の21**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	地理的分野	歴史的分野
		59.2		48.1	

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



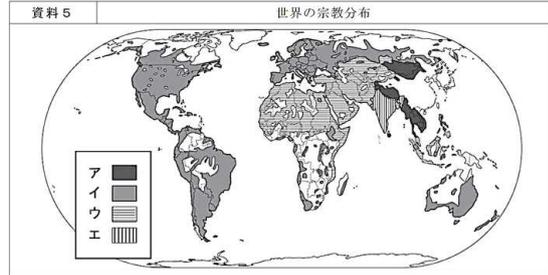
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	1 大陸の分布	地球の平面図で、六大陸の分布を理解している。	世界の地域構成	68.0	3.2
	2		2 目的に合わせた世界地図	中心からの距離と方位が正しい地図の特色を読み取ることができる。	世界の地域構成	88.1	0.1
	3		3 主な国々の位置	索引を使って国や都市の位置を探することができる。	世界の地域構成	61.4	3.7
	4		4 内陸国と海洋国 世界の地域区分	陸地と海洋の割合と世界の地域区分について理解している。	世界の地域構成	64.3	6.4
	5		5 世界のさまざまな宗教	宗教の分布やヒンドゥー教の特色について理解している。	世界の地域構成	28.3	1.1
	6		6 地球上の位置の表し方	経線と緯線について理解している。	世界の地域構成	31.3	4.0
	7		7 目的に合わせた世界地図	地図上における距離の表し方を理解している。	世界各地の人々の生活と環境	57.7	8.7
	8		8 世界のさまざまな住居と気候	住居の特徴と気候との関係を、資料から読み取って考察することができる。	世界各地の人々の生活と環境	53.0	0.9
	9		9 主な国々の名称	人物名、山や川などの地形名に由来する国名を理解している。	世界各地の人々の生活と環境	86.5	0.7
	10	2	1(1) 古代文明のおこり	中国文明の特色について理解している。	古代までの日本	73.1	12.0
	11		1(2) ギリシャ・ローマの文化	ギリシャ・ローマの文明の特色を理解している。	古代までの日本	59.9	5.2
	12		1(3) 古代文明のおこり	それぞれの古代文明における特色や主な遺跡を理解している。	古代までの日本	35.8	1.1
	13		2(1) 聖徳太子の政治	聖徳太子の行った数々の業績について理解している。	古代までの日本	35.1	2.5
	14		2(2) 聖徳太子の政治	聖徳太子が行った政治について、資料から読み取ることができる。	古代までの日本	75.9	4.4
	15		3(1) 仏教の伝来と影響	大陸からもたらされ、我が国に影響を及ぼした仏教について理解している。	古代までの日本	80.2	0.9
	16		3(2) 天平文化	天平文化について、資料から読み取ることができる。	古代までの日本	40.3	0.8
	17		4(1) 貴族のくらし	貴族である藤原道長の政治について理解している。	古代までの日本	62.2	13.8
	18		4(2) 摂関政治	摂関政治の特色について、資料から読み取ることができる。	古代までの日本	80.2	1.5
	19		5(1) 鎌倉幕府と室町幕府の仕組み	鎌倉幕府と室町幕府の仕組みについて理解している。	中世の日本	36.8	1.2
	20	5(2) 承久の乱	承久の乱とその後の鎌倉幕府が行った政治について理解している。	中世の日本	65.3	1.7	
B	21	1	1 中国の農業	中国が穀物輸入量の中でも、大豆の輸入量が多い状況を複数の資料や先生とのやりとりの会話から読み取り、学習問題を設定することができる。	世界の諸地域	70.9	5.9
	22		2 中国の農業	中国が穀物輸入量の中でも、大豆の輸入量が多い状況について、複数の資料から考察し、仮説を設定することができる。	世界の諸地域	39.8	10.3
	23		3 中国の農業	大豆の輸入量が増加している理由について、設定した仮説を検証するために必要な資料を選択することができる。	世界の諸地域	47.4	1.6
	24	2	1 鎌倉時代の仏教	鎌倉仏教が多くの人々に広まった理由について、資料から考察し、仮説を設定することができる。	中世の日本	34.4	16.3
	25		2 鎌倉時代の武士の生活	荘園が地頭分と領家分に二分された理由について、資料から考察し、仮説を設定することができる。	中世の日本	47.8	17.2

特徴の見られた問題例（中学校2年 社会）

A問題 ① 5 平均正答率が低かった問題

5 恵子さんは、世界の宗教について調べるために資料を集めたところ、資料4を見つけました。資料4に最も関わりのある宗教の分布を、資料5のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。



ねらい	宗教の分布やヒンドゥー教の特色について理解している。	正 答	エ	平均正答率(%)	28.3
				無解答率(%)	1.1

☆分析

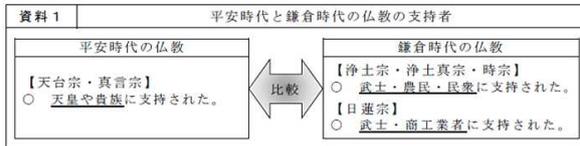
資料4から、宗教の特色を読み取り、資料5でその宗教の分布を選ぶという2段階の過程を経ないと正解にたどり着かない問題である。加えて、宗教の特徴が混在しやすいことや宗教によっては身近にイメージしにくいことなどが正答率の低い原因であると考えられる。

☆指導のポイント

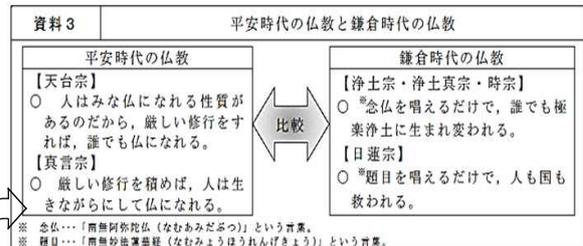
それぞれの宗教の内容や分布を正確に押さえていくとともに、世界の諸地域において国や州を学習する際に関連する宗教を復習したり、身近な生活にも外国人観光客や労働者が増えていくことを踏まえるなど、生活と関連付けながら指導をしていったりすることも大切である。

B問題 ② 1 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題

② 正志さんは、平安時代と鎌倉時代の仏教の違いについて調べていく中で、資料1を見つけ、下線部の比較から疑問をもち、下の資料2、3をもとに仮説を設定しました。仮説の□に入る適切な内容を、それぞれの時代における仏教の修行の方法を比較して答えなさい。



なぜ、鎌倉時代の仏教は、天皇や貴族ではなく、武士や民衆などに支持されたのだろう。



正志さんの仮説
資料2より、当時、戦乱やさきさんが発生し、命の危険にさらされていた武士や民衆などは、資料3より、□ 仏教を求めたのだろう。

ねらい	鎌倉仏教が多くの人々に広まった理由について、資料から考察し、仮説を設定することができる。	正 答	(例) 平安時代の厳しい修行が必要な仏教よりも、鎌倉時代の簡単で誰でも実行しやすい	平均正答率(%)	34.4
				無解答率(%)	16.3

☆分析

問題の意図は本質的には分かっているものの、問い方に応じた解答を文章で表現する力が身に付いていない生徒が多いことが考えられる。また、資料を読み取る力はあるものの、複数の資料を比較したり、関連付けたりすることも苦手とするため、正答できないことが考えられる。

☆指導のポイント

日頃の授業の中で、複数の資料を比較したり、関連付けたりする指導を積み重ねていく。その中で、まずは穴埋めや書き始めを示すなどして、資料に基づいて自分の考えを表現する授業を実践するなど、段階的に表現する活動内容を発展させていくことが大切である。

◇ みやざき中学校学習状況調査 第2学年 B問題¹をもとに授業を展開してみましょう! ◇

① 課題把握

動機付け (学習問題の設定)

ある社会的事象を提示し、生徒から疑問や気付きを引き出し、課題意識を醸成させる。

資料1 「中国の穀物輸出入の変化」

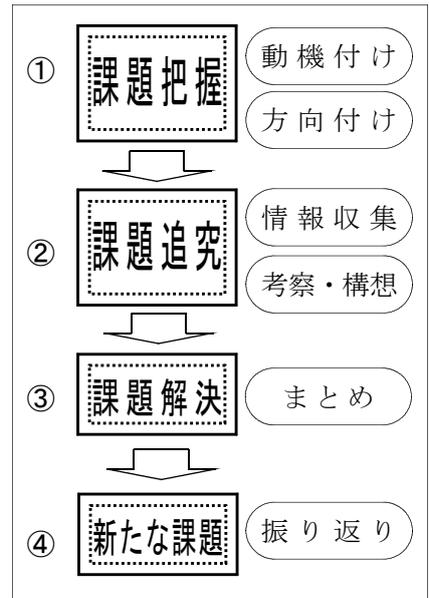
資料2 「中国の穀物別の輸入量の変化」より学習問題を設定する。

なぜ、中国では穀物の中で、特に大豆の輸入量が増えているのだろうか。

方向付け (課題解決の見通し)

これまでの既習事項をもとに、予想を立てさせる。

- ・中国は人口が多いため、自国で生産したものだけではまかなえなくなったからではないか。
- ・大豆料理がブームになったからではないか。 等



【課題解決を図る学習過程の展開】

② 課題追究

情報収集

資料を活用して調べさせる (課題解決に向けた、必要な資料の準備と提供)。

資料3 「中国の年収及び肉類消費量の変化」

資料4 「大豆油と大豆ミール」

考察・構想

社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、話し合わせ(討論等)、仮説を設定する。

資料5 「中国の大豆の用途別消費量の変化」

資料6 「中国の1人1日当たりの栄養摂取量」

他にも、社会に見られる課題を把握して、解決に向けて構想し、話し合わせ(討論等)、複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断させる。

検証ができると、仮説が深まるよね!



③ 課題解決

まとめ

考察したことや構想したことを踏まえて結論をまとめる。

中国で大豆の輸入量が増えているのは、近年中国では年収が増え国民の生活水準が向上し、肉類の消費量が増えるなど食生活が変化した。また、それに伴い、増加する肉類の消費に対応するため、肥育を早める効果のある大豆を家畜の飼料として使用するようになったからである。

④ 新たな課題

振り返り

学習を振り返って考察する。

新たな問い(課題)を見出したり、追究したりする。

- ・大豆の輸入量が増え続けると、国際的な取引価格はどうなっていくのだろうか。
- ・日本や他の国々への影響はどうなるのだろうか。 等

5 中学校1年：数学

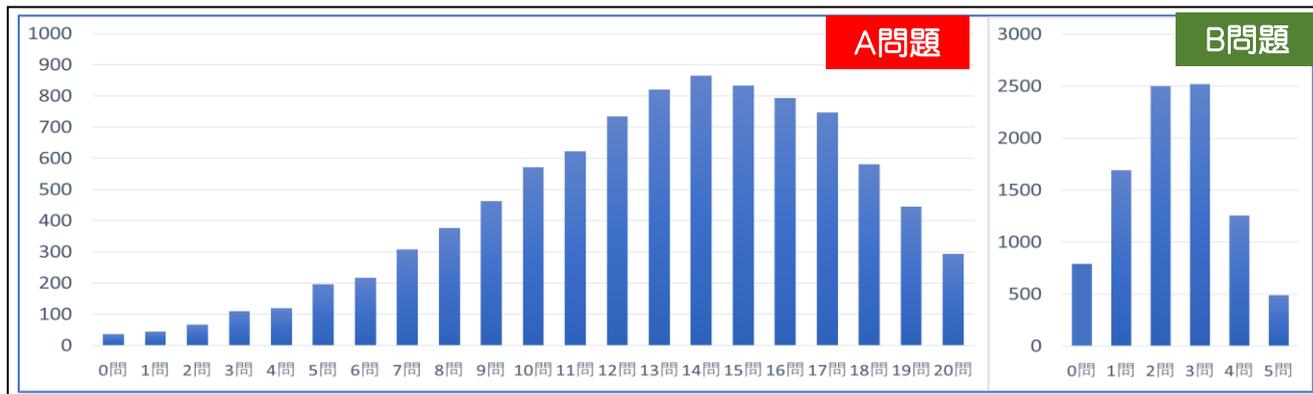
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**60.9%**である。「**図形**」については、平均正答率が**91.8%**と高くなっている。一方、「**量と測定**」については、平均正答率が**53.0%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かった**A問題の3(4)**と、平均正答率が低く無解答率が高かった**A問題の4(2)**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と計算	量と測定	図形	数量関係
		64.5		46.8		71.7	53.0

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



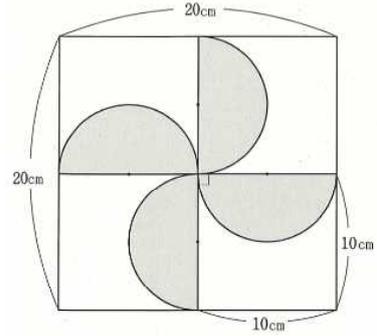
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	(1) 分数の大小	基準となる分数より大きくなる数を選ぶことができる。	数と計算	61.4	0.8
	2		(2) 約数	約数について理解している。	数と計算	83.8	2.2
	3		(3) 等しい比	等しい比に変形することができる。	数量関係	93.2	0.7
	4		(4) 小数の乗法	末位の揃っていない小数の乗法の計算ができる。	数と計算	79.8	0.5
	5		(5) 四則の混合した式の計算	()を用い、四則を混合した式の計算をすることができる。	数と計算	85.2	0.6
	6		(6) 分数の乗法・除法	分数と小数が混合した乗法・除法ができる。	数と計算	70.0	1.9
	7		(7) 小数の除法	わる数が小数の場合の除法の意味を理解することができる。	数と計算	57.2	3.3
	8	2	(1) 起こり得る場合	起こり得る場合を落ちや重なりがないように分類、整理することができる。	数量関係	86.3	0.7
	9		(2) 単位量あたりの大きさ	単位量あたりの大きさの求め方を用いて、2つの事柄を比較することができる。	量と測定	44.4	0.8
	10		(3) 文字を用いた式	数量の関係を文字を用いた式で表すことができる。	数量関係	67.2	1.1
	11		(4) 平均	平均の求め方を用いて、全体の平均を求めることができる。	量と測定	27.5	12.1
	12		(5) 道のり・速さ・時間	道のり・速さ・時間を求める公式を用いて、実際にかかる時間を求めることができる。	量と測定	61.9	5.0
	13	3	(1) 円柱の体積	円柱の体積を求める式をつくることができる。	量と測定	59.8	2.4
	14		(2) 角柱の展開図	展開図の図形の形や面の数をもとに、立体の名称を答えることができる。	図形	91.8	0.8
	15		(3) 図形の面積	基準となる平行四辺形の面積の半分になる図形を、見いだすことができる。	量と測定	56.9	2.2
	16		(4) 図形の面積	円の面積の求め方を用いて、色の付いた部分の面積を求めることができる。	量と測定	40.7	4.7
	17	4	(1) 基準量	基準量、比較量、割合を適切な式に表すことができる。	数量関係	47.6	2.1
	18		(2) 規則性	規則性を見だし、テープの長さを求めることができる。	数量関係	20.0	5.0
	19	5	(1) 柱状グラフ	柱状グラフから必要な情報を取り出すことができる。	数量関係	74.5	3.4
	20		(2) 反比例のグラフ	反比例のグラフを選ぶことができる。	数量関係	79.8	4.4
B	21	1	(1) 立体の体積	例をもとにできあがる立体の形を想起し、体積を求めることができる。	量と測定	80.0	1.8
	22		(2) 立体の体積	例をもとに体積が減る理由を筋道を立てて説明することができる。	量と測定	52.9	9.9
	23	2	(1) 概数	大きな数を、概数を用いて表すことができる。	数と計算	64.6	5.5
	24		(2) 割合	円グラフのデータを用いて、スギの割合を百分率で表す式を考えることができる。	数量関係	20.9	14.6
	25		(3) 資料の調べ方	資料を適切に読み取り、必要なデータを用いて正しい意見を選ぶことができる。	数量関係	15.5	8.6

特徴の見られた問題例 (中学校1年 数学)

A問題 ③ (4) 平均正答率が低かった問題

次の図のように、1辺が20cmの正方形の中に、コンパスを使って模様をかきました。このとき、図の色をつけた部分の面積を求めなさい。ただし、円周率を3.14とします。



正答	157 cm ²
----	---------------------

ねらい	円の面積の求め方を用いて、色の付いた部分の面積を求めることができる。	平均正答率 (%)
		40.7
		無解答率 (%)
		4.7

☆分析

【誤答例】

$(10 \times 10 \times 3.14) \times 2 = 628$ 、 $(10 \times 3.14) \times 2 = 62.8$ 、計算ミス

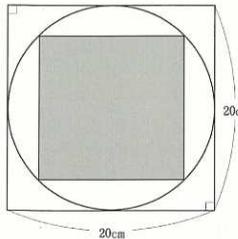
【正答率が低かった理由】

- 与えられた図から、面積を求めるために必要な数値を読み取ることができない。
- 面積を求める公式と円周の長さを求める公式を混同している。
- 半円の面積を求めて4倍したり、足したりするなど、煩雑な処理を行い、計算ミスをしている。

平成30年度A問題③(4)、平成29年度A問題③(2)でも、同じく「正方形や円の面積の求め方を用いて、色の付いた部分の面積を求めることができる。」問題が出題されており、平均正答率はそれぞれ27.6%、42.8%、無解答率はそれぞれ19.4%、9.4%と昨年度は下降傾向であったが、今年度は改善が見られたと考えられる。

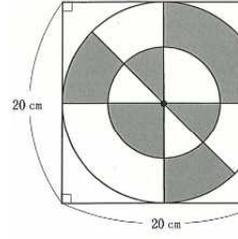
平成30年度A問題③(4)

次の図の色をつけた部分は、正方形です。この正方形の面積を求めなさい。



平成29年度A問題③(2)

次の図のように、円の中心が同じところにある大小2つの円と、大きい円を囲んでいる正方形があります。正方形の1辺の長さが20cmで、2つの円が直径で区切られているとき、色を付けた部分の面積の合計は何cm²になるか、答えなさい。ただし、円周率は3.14とします。



☆指導のポイント

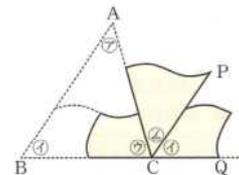


- ◆ 公式に関する知識を定着させるために、様々な図形の面積を求める場面を設定し、公式の有用性を実感できるようにしましょう。
- ◆ 効率的に面積を求める方法を考えさせたり、図形の面積を求めるために必要な数値を児童によりもとらせたりする場面を設定しましょう。
- ◆ 個人からグループ、全体というような、気づきを深めるような学習形態を取り入れましょう。

心がけていきたいポイント→(授業改善の工夫 どんな授業をすることができるか 授業のアイデア)

授業のアイデア

- 具体物を切って組み合わせる活動を取り入れたり、(例)三角形の内角の和が180°になる。ICTを活用して視覚的にとらえることができるようにしたりして、実感をともなった理解につなげる授業を展開する。
- 小学校で学習した内容であるが、中学校でも再度出てくるといった系統性を意識して授業する。



- 過去問を含めた上記のような問題を、中学校第1学年の「図形の移動」の中で、学習問題として取り入れる。その際、多様な考え方を引き出せるように、グループ学習等の学習形態の工夫を行うと、より効果的に行える。
- ☆ 県教育研修センターのHPにある「インターネットでe-研修」の中に、都城市立高崎中学校 早崎聡美 指導教諭が、H30年度A問題③(4)を学習問題として実践された授業の様子が掲載されています。

特徴の見られた問題例 (中学校1年 数学)

A問題 4 (2) 平均正答率が低く無解答率が高かった問題

長さ10cmの紙のテープが40本あります。
このテープのはしを1cmずつ重ねてつなぎ、次の図のような長いテープをつくります。



40本つないだときのテープの長さは、何cmになるか答えなさい。

正答	361 cm
----	--------

ねらい	規則性を見だし、テープの長さを求めることができる。	平均正答率 (%)	20.0
		無解答率 (%)	5.0

☆分析

【誤答例】

$9 \times 40 = 360$ 、 $10 \times 40 = 400$ 、 $10 \times 400 - 1 = 399$

【正答率が低かった理由】

- 問題に書かれている内容をイメージできない。
- 問題にある図をうまく活用できない。
- 問題に書かれている情報を図や表を用いて整理できない。

☆指導のポイント



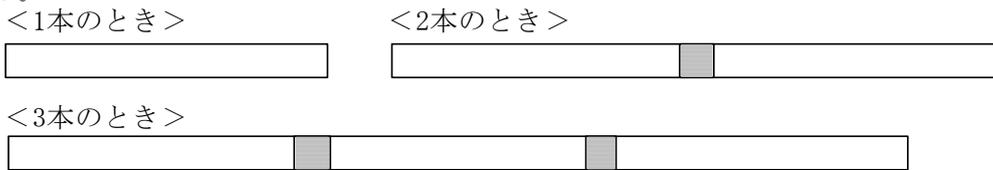
- ◆ 全国学力学習状況調査やみやざき小中学校学習状況調査の過去問等を活用して、授業でも規則性の問題を取り上げましょう。
- ◆ 教師が情報を図や表に整理して示したり、生徒が情報を図や表にまとめたりする場面を設定しましょう。
- ◆ 具体物を提示し、問題の内容を視覚的に捉え、イメージできるようにしましょう。

心がけていきたいポイント→(授業改善の工夫 どんな授業をすることができるか 授業のアイデア)

授業のアイデア

【上記問題を学習問題として取り入れた授業展開例】

① 紙のテープが1本のとき、2本のとき、3本のとき、…と具体物を用いて、段階的に提示する。



- ② 段階的に提示することで、何かきまりがありそうなことに気づかせ、表にするときまりを見つけやすそうであることを、子どもから引き出せるような発問をする。
- ③ 表を作成し、個人思考する。その際、表を縦に見たり、横に見たりするよう視点を与え多様な見方ができるようにする。

本数 (本)	1	2	3	4	5	...
長さ (cm)	10	19	28	37	46	...

- ④ 考え方ごとになぜそうなるのかを考える。
ア 本数が1本増えると、なぜ長さは9cmずつ増えるのか。<表を横に見たとき>
イ なぜ本数に9をかけて1をたすと長さになるのか。<表を縦に見たとき>
- ⑤ それぞれの考え方について、具体物で確認する。
- ⑥ 40本のときどうなるか考える。
- ⑦ 答えを確認し、まとめを行う。
- ⑧ 適用問題に取り組む。

(例：みんなで話し合ってみよう 啓林館 p 55)
(例：自分の考えをまとめよう 啓林館 p 65、76)

6 中学校2年：数学

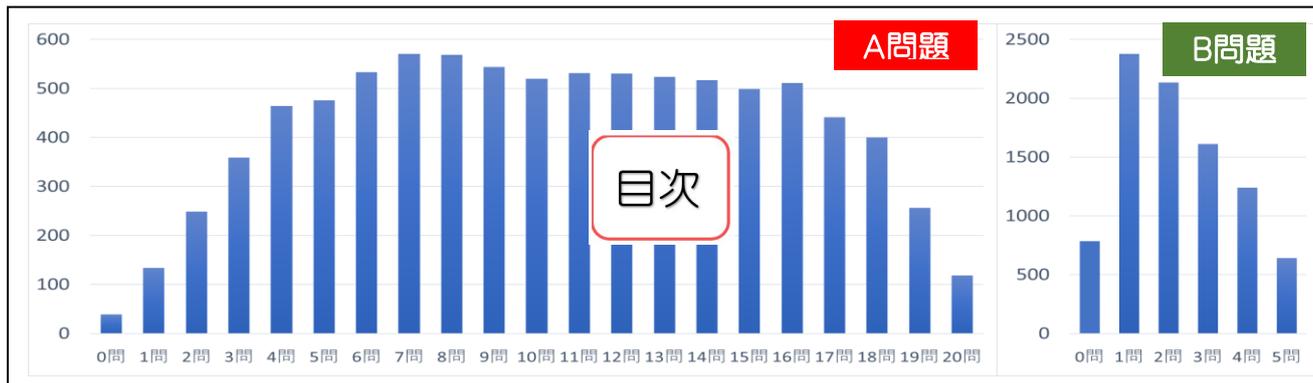
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**50.6%**である。「数と式」については、平均正答率が**58.2%**と高くなっている。一方、「資料の活用」については、平均正答率が**41.3%**と低い。特徴の見られた問題では、無解答率が高かったA問題の**4**(2)と、平均正答率が低く無解答率が高かったA問題の**6**(2)②を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	数と式	図形	関数	資料の活用
	52.1	44.7		58.2	48.6	47.3	41.3

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



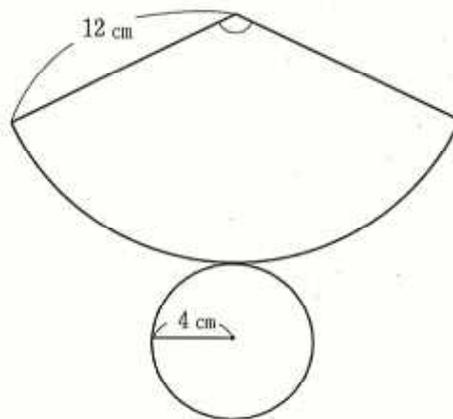
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)	
	番号	大問						中・小問
A	1	1	(1)	負の数の減法	負の数の減法の計算ができる。	数と式	89.7	0.4
	2		(2)	数と累乗の計算	数と累乗の計算ができる。	数と式	76.3	0.6
	3		(3)	負の小数と分数の大小	負の小数と分数の大小を理解している。	数と式	58.5	0.7
	4		(4)	絶対値	絶対値の意味を理解している。	数と式	52.4	1.8
	5		(5)	文字式の表し方	数量を文字式に表すことができる。	数と式	36.9	1.1
	6	2	(1)	式の値	式の値を求めることができる。	数と式	43.7	7.2
	7		(2)	文字式の計算	文字式同士の減法の計算ができる。	数と式	43.9	4.3
	8		(3)	文字式と数量	数量関係を等式に表すことができる。	数と式	46.6	5.6
	9		(4)	比と比例式	比例式をつくり、比例式を解くことができる。	数と式	73.1	5.1
	10		(5)	一次方程式の解き方	小数を含む方程式を解くことができる。	数と式	60.9	6.0
	11	3	(1)	比例のグラフ	比例定数が負の数である比例のグラフの特徴を理解している。	関数	37.2	1.7
	12		(2)	変域	比例のグラフから、 x の変域に対する y の変域を求めることができる。	関数	43.5	11.0
	13		(3)	反比例の式	反比例の対応表から、 x と y との関係を式に表すことができる。	関数	49.6	11.7
	14	4	(1)	垂直二等分線の作図	条件に合う作図の方法を選ぶことができる。	図形	68.6	1.4
	15		(2)	おうぎ形の中心角	円錐の展開図をもとに、側面のおうぎ形の中心角を求めることができる。	図形	51.7	13.8
	16	5	(1)	直線と平面の位置関係	空間における直線と平面の平行の関係を理解している。	図形	37.9	4.2
	17		(2)	立体の体積	底面積と高さが等しい柱体と錐体の体積の関係を理解している。	図形	36.0	5.5
	18	6	(1)	代表値とちがひ	与えられた条件をもとに、値を求めることができる。	資料の活用	52.3	10.3
	19		(2)	相対度数	度数分布表から相対度数を求めることができる。	資料の活用	48.1	9.6
	20		(2)	平均値	度数分布表から平均値を求めることができる。	資料の活用	35.9	15.9
B	21	1	(1)	比例の利用	グラフから、必要な情報を読み取ることができる。	関数	88.2	3.3
	22		(2)	比例の利用	グラフの特徴から、2つの数量関係が比例であることを説明することができる。	関数	38.4	24.7
	23		(3)	比例の利用	比例の関係をを利用して、実際の問題を解決することができる。	関数	26.8	24.3
	24	2	(1)	ヒストグラム	ヒストグラムの特徴をもとに、資料の傾向を読み取ることができる。	資料の活用	46.6	14.5
	25		(2)	代表値(理由)	ヒストグラムから得られる資料を根拠に、理由を説明することができる。	資料の活用	23.4	35.4

特徴の見られた問題例 (中学校2年 数学)

A問題 4 (2) 無解答率が高かった問題

次の図のように、底面の半径が4cmで、母線の長さが12cmの円錐の展開図があります。
 このとき、円錐の側面であるおうぎ形の中心角の大きさを求めなさい。



正 答	120°	平均正答率 (%)	51.7
		無解答率 (%)	13.8

ねらい 円錐の展開図をもとに、側面のおうぎ形の中心角を求めることができる。

☆分析

【無解答率が高かった理由】

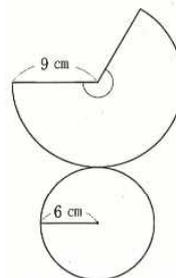
- 中心角を求める方法が分からなかった。
- おうぎ形と円の関係が分かっていない。
- 底面の円周の長さとおうぎ形の弧の長さが等しいことが分かっていない。

平成30年度A問題4(2)でも、同じく「円錐の展開図からおうぎ形の中心角を求める」問題が出題されており、平均正答率が48.8%、無解答率が16.5%であった。しかし、依然として、他の問題と比較すると無解答率が高く、課題がある問題である。



平成30年度A問題4(2)

次の図のように、底面の半径6cmで、母線の長さが9cmの円錐の展開図があります。このとき、円錐の側面であるおうぎ形の中心角の大きさを求めなさい。



☆指導のポイント

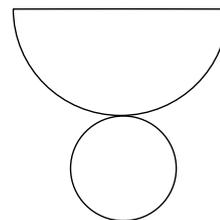


- ◆ 実際に底面の円周とおうぎ形の弧の長さが等しいことを確認するために、具体物を操作する活動（画用紙で円錐をつくってみるなど）も取り入れてみましょう。
- ◆ おうぎ形と円の大きさの関係性（何倍になるかなど）を問う指導を継続的に行いましょう。

心がけていきたいポイント→(授業改善の工夫 どんな授業をすることができるか 授業のアイデア)

授業のアイデア

- 円周の長さとおうぎ形の弧の長さが等しいことを、実際に円錐を作って確認する。
 例：右の図のように、側面を半円にする等、分かりやすい数値を使う。
- 視覚的に訴える教具やICTを授業で活用する。
- 円とおうぎ形の比の関係を扱う場面で、日常の事象にあてはめて考えさせる。



特徴の見られた問題例 (中学校2年 数学)

A問題 ⑥ (2)② 平均正答率が低く無解答率が高かった問題

次の表は、^{まさひろ}正広さんのクラス40人について、1年間に読んだ本の冊数を調べ、度数分布表に整理したものです。

【1年間に読んだ本の冊数】

階級(冊)	度数(人)
0以上 ~ 20未満	8
20 ~ 40	10
40 ~ 60	12
60 ~ 80	7
80 ~ 100	2
100 ~ 120	1
計	40

② 度数分布表から平均値を求めなさい。

正 答	44冊	平均正答率(%)	35.9
		無解答率(%)	15.9

ねらい	度数分布表から平均値を求めることができる。
-----	-----------------------

☆分析

【正答率が低かった理由】

- 計算がやや複雑なため計算ミスをした。
- 最頻値を平均値として答える等、別の代表値を平均値として答えた。
- 階級値の意味を理解していない。
- 測定値の0~120の真ん中の値を平均値として答えた。
- 解き方がわからなかった。

平成29年度A問題⑥(1)②でも、同じく「度数分布表から平均値を求める」問題が出題されており、平均正答率が26.7%、無解答率が18.7%であった。しかし、依然として、他の問題と比較すると正答率、無解答率に課題がある問題である。



平成29年度A問題⑥(1)②

次の表は、ある中学校の男子20人の50m走の記録を、度数分布表に整理したものである。度数分布表から、平均値を求めなさい。

【50m走の記録】

階級(秒)	度数(人)	相対度数
6.5 ^{以上} ~ 7.5 ^{未満}	5	0.25
7.5 ~ 8.5	7	0.35
8.5 ~ 9.5	6	
9.5 ~ 10.5	1	0.05
10.5 ~ 11.5	1	0.05
計	20	1.00

☆指導のポイント



- ◆ 身近なデータを使った授業を展開してみましょう。
- ◆ 単元末等で平均値を使って分析を行うような学習課題を設定してみましょう。
- ◆ 単元末等で平均値の必要性を問うような学習課題を設定してみましょう。
- ◆ 教科書では計算機を使用していますが、計算間違いを減らすために自分で計算させてみましょう。
- ◆ 階級値などの代表値の意味や必要性をおさえておきましょう。

心がけていきたいポイント→(授業改善の工夫 どんな授業をすることができるか 授業のアイデア)

授業のアイデア

- 導入 ~ 個別の値が分かっている資料を使って平均値を求めよ。
- 展開 ~ ① 度数分布を提示する。
② 個別の値が分かっている資料から平均値を求める方法を考える時間を設定する。
③ 個別の値が分からないのでだいたいの値(階級値)を使って求める方法を示し、実際に求めさせる。
④ 導入で求めた平均値と階級値を使った平均値がだいたい同じになることを実感させる。
⑤ 階級値の意味や必要性をおさえる。
- まとめ ~ ① 適用問題及び練習問題に取り組む時間を設定する。
② 板書を使って、本時の内容を振り返る。

7 中学校1年：理科

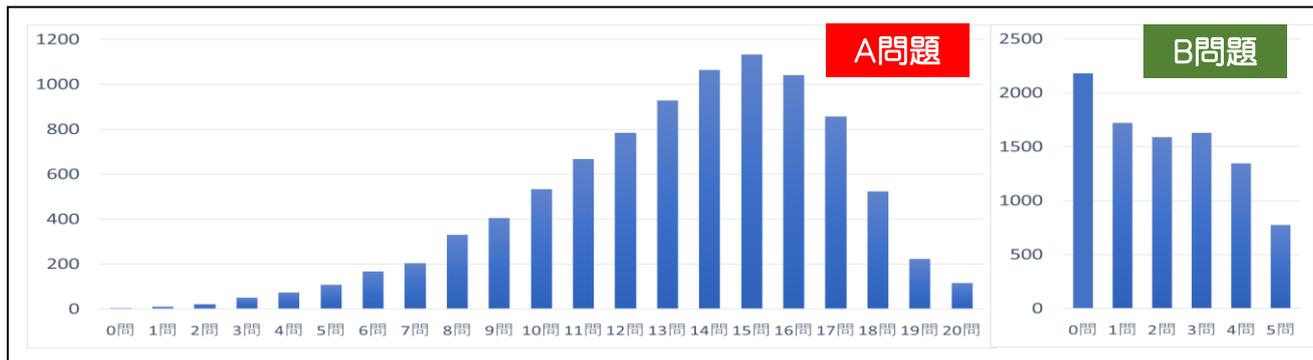
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**61.5%**である。「地球」については、平均正答率が**65.4%**と高くなっている。一方、「生命」については、平均正答率が**56.8%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**2**1と**5**3、平均正答率が低く、無解答率が高かったB問題の**1**3を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	生命	地球	エネルギー	粒子
		66.5		41.2		56.8	65.4

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率 (%)	無解答率 (%)
	番号	大問	中間					
A	1	1	1	花から実へ(花のつくり)	お花とめ花のつくりの違いを理解している。	生命・地球(生命)	65.1	0.3
	2		2	花から実へ(花のつくり)	おしべにみられる花粉について理解している。	生命・地球(生命)	94.0	1.3
	3		3	花から実へ(花粉のはたらき)	受粉について理解している。	生命・地球(生命)	82.2	5.6
	4	2	1	顕微鏡の使い方	顕微鏡の正しい操作の手順を理解している。	生命・地球(生命)	18.2	0.2
	5		2	顕微鏡の使い方	観察物にビントを合わせるときの顕微鏡の操作を指摘できる。	生命・地球(生命)	57.1	0.3
	6		3	顕微鏡の使い方	顕微鏡の正しい操作の手順を理解している。	生命・地球(生命)	68.1	0.2
	7	3	1	①② 流れる水と地面のようす	流れる水のはたらきによって起こる侵食及び堆積について理解している。	生命・地球(地球)	62.3	7.1
	8		2	川の流れとそのはたらき	川の下流にみられる、堆積した石の大きさや形の特徴について指摘できる。	生命・地球(地球)	81.9	1.4
	9	4	1	夏の夜空	星座早見の使い方を理解している。	生命・地球(地球)	94.6	0.7
	10		2	夏の夜空	夏の夜空に見られる代表的な星の名称を指摘できる。	生命・地球(地球)	17.8	18.5
	11		3	星の動き	時間経過にともなう星の動きについて理解している。	生命・地球(地球)	70.5	1.1
	12	5	1	空気中に出ていく水	条件の違いによる水の蒸発量の違いについて理解している。	物質・エネルギー(粒子)	75.2	0.7
	13		2	空気中に出ていく水	水蒸気について指摘できる。	物質・エネルギー(粒子)	81.8	1.5
	14		3	水を熱したときの泡の正体	水蒸気とはどのような状態であるかを理解している。	物質・エネルギー(粒子)	8.6	1.7
	15	6	1	電磁石のはたらき	電磁石について理解している。	物質・エネルギー(エネルギー)	60.6	15.9
	16		2	電磁石の極	流れる電流の向きの変化により、発生する磁界の向きが変化することを理解している。	物質・エネルギー(エネルギー)	83.4	1.6
	17		3	①② 電磁石の強さが変わる条件	電磁石をより強くするための条件について指摘できる。	物質・エネルギー(エネルギー)	89.2	1.7
	18	7	1	水溶液の仲間分け	酸性の水溶液の特徴を理解している。	物質・エネルギー(粒子)	69.2	4.4
	19		2	水溶液にとけているもの	水溶液の中に溶けているものについて理解している。	物質・エネルギー(粒子)	64.1	1.7
	20		3	安全に実験を行うための操作	水溶液の実験を行うに当たっての安全面の配慮等実験の留意点を指摘できる。	物質・エネルギー(粒子)	86.7	1.8
B	21	1	1	種子が発芽する条件	予想を確かめるために行う実験の条件制御を、適切に行うことができる。	生命・地球(生命)	35.7	9.4
	22		2	種子が発芽する条件	実験の条件を理解し、適切な見出しを考えることができる。	生命・地球(生命)	36.6	8.3
	23		3	種子が発芽する条件	実験の結果を分析、解釈し、学習問題に対して適切な結論を記述できる。	生命・地球(生命)	54.4	11.3
	24	2	1	①② てこのうでを傾げる働き	実験の結果を分析、解釈し、学習問題に対して適切な結論を指摘できる。	物質・エネルギー(エネルギー)	32.7	4.9
	25		2	てこのうでを傾げる働き	実験でわかったことを、他の条件に適用させて考えることができる。	物質・エネルギー(エネルギー)	46.8	6.8

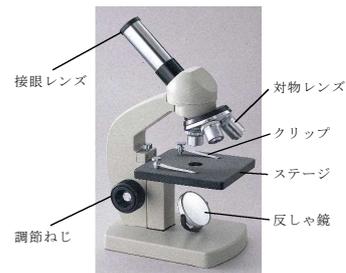
特徴の見られた問題例 (中学校1年 理科)

A問題 ② 1 平均正答率が低かった問題

1 けんび鏡の正しい使い方の順になるように、次のア～エの文を適切な順に並べなさい。

- ア 接眼レンズをのぞきながら、調節ねじを回してピントを合わせる。
- イ 接眼レンズをのぞきながら、反しや鏡を動かして明るく見えるようにする。
- ウ プレパラートをステージの上に置き、クリップで留める。
- エ 横から見ながら調節ねじを回して、対物レンズとプレパラートをすれすれまで近づける。

図 1



ねらい	顕微鏡の正しい操作の手順を理解している。	平均正答率(%)	18.2
正答	イ → ウ → エ → ア	無解答率(%)	0.2

☆分析

平均正答率が18.2%と低く、経年比較でもほぼ同じような状況が見られる。誤答を見ると、ウから始めているものが多い。顕微鏡で観察するためには、まず、適切な場所に設置し、視野全体を適切な明るさにする等正しく観察できる状態にする必要がある。しかし、実際に使用するに当たっては正しい操作の手順でなくても観察は可能であるため、なぜこの手順で行わなければならないのかといった操作の際の理由を理解しないまま顕微鏡を使っていることが考えられる。

☆指導のポイント

操作の手順には理由があることから、顕微鏡を使って観察する際には指導者による丁寧かつ確実な指導が必要であり、そのためには指導者自身が操作を熟知しておく必要がある。また、児童生徒に操作させる際、声に出して各操作を確認させながら行わせたり、操作についての掲示(提示)資料を準備してこれをもとに丁寧に確認させながら行わせたりすること等が考えられる。

A問題 ⑤ 3 平均正答率が低かった問題

3 図3は、やかんに入れた水がふつとうしているようすを表したものです。水が気体のすがたになっているところを、次のア～エからすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 湯気
- イ 見えない部分
- ウ あわ
- エ 湯

図 3



ねらい	水蒸気とはどのような状態であるかを理解している。	平均正答率(%)	8.6
正答	イ ウ (完全解答)	無解答率(%)	1.7

☆分析

平均正答率が8.6%であり、A、B問題全体を見て最も平均正答率が低い。誤答を見ると、「ア 湯気」を選択している生徒が多い。日常では、「蒸気=湯気」ととらえて使用することが多く、このことにより学習によって正しい科学的概念に置き換えることが難しいと考える。また、正答である「ウ あわ」を選択しない生徒が多い。泡の正体は水蒸気(気体)であるが、周りの水によって泡が見える。「水蒸気は気体だから見えない」と学習したことに対して矛盾すると考え、選択しなかったと考えられる。

☆指導のポイント

水の状態変化については日常に見られる事象であることから、学習を進めるに当たっては、学んだことを日常生活の事象に照らし合わせて説明させる場面を設定するなど、児童が主体となって活動する場面の工夫が大切である。また、単元末の「たしかめよう」を行うに当たり、「湯気」は水であり、水ということは液体の状態であることを、丁寧かつ確実に押さえながら学習を進めていくことが大切である。このとき、誤った概念のままの児童に対しては、前時に立ち返って学習のポイントを確認させるなど、確実に身に付けさせることが大切である。

特徴の見られた問題例（中学校 1 年 理科）

B 問題 ① 3 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題

【学習問題】

種子が発芽するためには、どのような条件が必要なのだろうか。

【予想】

耕太さん：季節によって気温が違うので、種子の発芽には適当な温度が必要だと思う。
 菜実さん：季節によって雨のふる量がちがうので、種子の発芽には水が必要だと思う。
 大地さん：日当たりがいいと植物はよく育つから、種子の発芽には光が必要だと思う。
 結季さん：植物も、人間と同じで生き物だから、種子の発芽には空気が必要だと思う。

【実験】

省略

【結果】

【表】

省略

実験	A		B		C	
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
発芽の ようす	発芽した。	発芽しな かった。	発芽した。	発芽しな かった。	発芽した。	発芽しな かった。

3 この実験の【結果】から、【学習問題】に対する結論を書きなさい。

ねらい	実験の結果を分析、解釈し、学習問題に対して適切な結論を記述できる。	平均正答率(%)	54.4
正答	(例) 種子が発芽するためには、水と空気と適当な温度が必要である。	無解答率(%)	11.3

☆分析

平均正答率は54.4%であり、B問題の中では平均正答率は高い方であるものの、全体的に見ると平均正答率は低い。無解答率は11.3%であり、全体的に見て高い。誤答の中には、学習問題にある「種子が発芽するためには」の言葉を使って書き出しているものもあることから、学習問題を意識して結論を記述しようとしており、日頃の学習の成果が表れている部分もある。しかし、学習問題を正しく捉えていないために実験結果から大きく外れた結論を記述していると判断できる誤答が見られる。また、実験結果から、発芽に必要な要素を3点挙げるべきであるが、要素が不足している誤答も見られる。

記述による解答を求める問題については例年、本問題同様に無解答率が高い。日頃の授業において自分の考えを書くことに慣れていないためにどのように表現すればよいかわからず、書くことに抵抗を感じる生徒もいるため、無解答率が高くなったことが考えられる。

☆指導のポイント

問題解決的な学習を進めるに当たり、学習問題と結論を正対させる必要があることから、結論を導く場面においては「学習問題は何だったか」を確認して、これに正対する結論を考えるよう繰り返し指導を行うことが大切である。

「条件制御」については、「変える条件」と「同じにする条件」を適切に区別することが大切である。観察・実験を行うに当たっては、この区別を丁寧に確認しながら学習を進めていくことや、観察・実験を行う際に、「予想は何だったのか」を確認し、条件制御の妥当性を吟味しながら児童生徒自ら観察・実験の計画を立てる場面を設定することが大切である。

また、記述式の問題に対して科学的根拠をもって自分の考えを書く力を身に付けさせるためには、日頃の授業において問題解決的な学習を行い、その中で言語活動を積極的に取り入れていくことが考えられる。自分の考えを表現する際、科学的な言葉を用いることを意識させたり、用いることが難しい児童生徒には表現の際のポイントとなるキーワードを提示したりするなど、科学的な言葉を使って説明する指導を繰り返し行うことが大切である。

8 中学校2年：理科

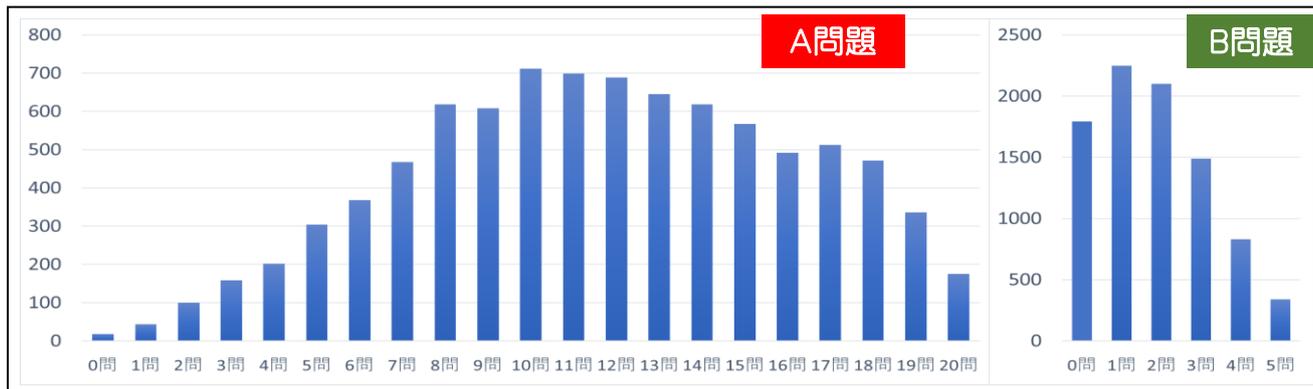
学習状況調査の結果概要

平均正答率は、**53.8%**である。「生命」については、平均正答率が**65.8%**と高くなっている。一方、「エネルギー」については、平均正答率が**46.0%**と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の**11**、平均正答率が低く、無解答率が高かったA問題の**71**とB問題の**1・3**を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	生命	地球	エネルギー	粒子
		58.2		36.2		65.8	59.4

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



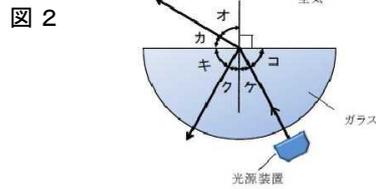
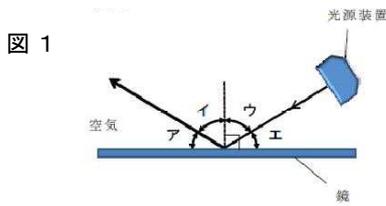
③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号			出題内容	出題のねらい	領域	正答率 (%)	無解答率 (%)	
	番号	大問	中間						小問
A	1	1	1	光による現象 光がはね返るとき のようす	反射角を指摘できる。	物質・エネルギー (エネルギー)	26.9	0.6	
	2		2	光による現象 光がはね返るとき のようす	入射角と反射角の規則性を理解している。	物質・エネルギー (エネルギー)	80.8	0.3	
	3	2	1	大地がゆれる 大地を伝わる地震のゆ れ	主要動を指摘できる。	生命・地球 (地球)	76.0	5.6	
	4		2	大地がゆれる 大地を伝わる地震のゆ れ	初期微動継続時間を求めることができる。	生命・地球 (地球)	85.1	2.5	
	5		3	大地がゆれる 大地を伝わる地震のゆ れ	震源からの距離と地震の揺れの関係について理解している。	生命・地球 (地球)	71.2	0.4	
	6	3	1	花のつくりとはたらき 花のつくりとはたらき	アブラナの花の基本的なつくりを理解して いる。	生命・地球 (生命)	73.7	0.4	
	7		2	花のつくりとはたらき 花のつくりとはたらき	花のつくりの特徴をとらえ、各部の名称 (胚珠)を指摘できる。	生命・地球 (生命)	61.4	3.8	
	8		3	双眼実体顕微鏡の使い方	双眼実体顕微鏡の操作の手順を理解してい る。	生命・地球 (生命)	18.8	0.5	
	9	4	1	物質のすがたとその変化 物質のすがたの変化	物質の体積の変化を温度と関連付けて理解 している。	物質・エネルギー (粒子)	72.1	0.3	
	10		2	物質のすがたとその変化 物質のすがたの変化	物質の状態変化を粒子の視点で理解してい る。	物質・エネルギー (粒子)	45.7	0.4	
	11		1	葉緑体をつくるしくみ 葉のつき方と日光の関 係	光合成の実験について、植物を一晩暗室に 置く理由を指摘できる。	生命・地球 (生命)	81.5	5.5	
	12	5	2	葉緑体をつくるしくみ 葉のつき方と日光の関 係	葉緑体を指摘できる。	生命・地球 (生命)	83.6	4.9	
	13		3	葉緑体をつくるしくみ 葉のつき方と日光の関 係	光合成が行われるとき、葉緑体にデンプン がつくられることを理解している。	生命・地球 (生命)	75.8	0.9	
	14	6	1	力による現象 面に加わる力のはたら き	圧力の概念を理解している。	物質・エネルギー (エネルギー)	52.1	1.3	
	15		2	力による現象 面に加わる力のはたら き	圧力の大きさを比較できる。	物質・エネルギー (エネルギー)	45.8	1.8	
16	7	1	A	水溶液の性質 濃さの表し方	質量パーセント濃度の公式に、適切な数値 を当てはめることができる。	物質・エネルギー (粒子)	52.8	2.4	
17			B	水溶液の性質 濃さの表し方	質量パーセント濃度を、公式により求める ことができる。	物質・エネルギー (粒子)	30.5	9.5	
18		2	物質	水溶液の性質 水の温度と物質の溶け る量	実験の条件と溶解度曲線の読み取りから、 溶解できる質量を求めることができる。	物質・エネルギー (粒子)	36.5	2.3	
19			3	物質	水溶液の性質 溶質のとり出し方	実験の条件と溶解度曲線の読み取りから、 析出する物質を特定できる。	物質・エネルギー (粒子)	52.3	9.4
20				質量	水溶液の性質 溶質のとり出し方	実験の条件と溶解度曲線の読み取りから、 析出する物質の質量を求めることができ る。	物質・エネルギー (粒子)	41.6	4.8
21	1	1	(1)	音による現象 音の大小と高低	実験の条件を踏まえ、音の高さを確かめる ための実験装置を選ぶことができる。	物質・エネルギー (エネルギー)	38.1	2.8	
22			(2)	音による現象 音の大小と高低	実験の条件を踏まえ、最も高い音を出すこ とができる実験装置を選ぶことができる。	物質・エネルギー (エネルギー)	58.8	4.3	
23			3	音による現象 音の大小と高低	実験の結果を分析、解釈し、科学的により 適切な考察となるよう改善できる。	物質・エネルギー (エネルギー)	19.5	16.0	
24	2	1	大地は語る 地層のつき方・地層の 広がり	露頭の観察結果と地層のつき方を照らし合 わせ、地層ができた理由を推測できる。	生命・地球 (地球)	40.6	3.6		
25		2	大地は語る 地層のつき方・地層の 広がり	2地点の地質柱状図を手がかりにして、地 層の広がりについて指摘できる。	生命・地球 (地球)	24.1	23.5		

特徴の見られた問題例 (中学校2年 理科)

A問題 ① 1 平均正答率が低かった問題

1 図1, 図2において, 反射角の大きさを表しているのはどれですか。ア～コから当てはまるものをすべて選び, 記号で答えなさい。



ねらい	反射角を指摘できる。	平均正答率 (%)	26.9
正答	イ、ウ (完全解答)	無解答率 (%)	0.6

☆分析

平均正答率は26.9%であり, 誤答を見るとイとウについては正しく指摘できているものの, 図2のオも反射角と判断している生徒が多い。図2を見ると, オは境界面に垂直な線と屈折光線がつくる角であるが, 屈折光線を反射光線と誤って認識しているため, これを反射角の定義に当てはめて解答したのではないかと考える。

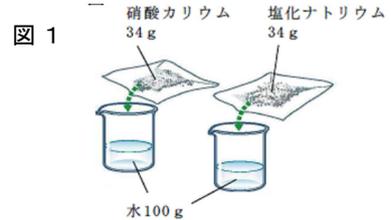
☆指導のポイント

屈折や全反射を扱う学習指導過程において, 入射光線, 屈折光線と併せて反射光線があることに触れ, それぞれの違いについて丁寧に確認しながら定着を図ることが大切である。半円形レンズ等を使った光の屈折の実験を行う際には, 主な目的である屈折光線について光の進む方向と角度について確認と記録を行うが, 反射光線も確認と記録を行い, 入射光線, 屈折光線及び反射光線とそれぞれの角度の関係について認識を深めることが考えられる。

A問題 ⑦ 1 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題

【実験】

① 図1のように, 40℃の水を100g入れた2つのビーカーに, 硝酸カリウムと塩化ナトリウムをそれぞれ34gずつ加え, すべてをとかす。
～以下省略～



1 【実験】の①で, 塩化ナトリウム水溶液の質量パーセント濃度を求めます。次の【式】のAに当てはまるものを, 下のア～エから1つ選び, 記号で答えなさい。また, Bは, 小数第1位を四捨五入して, 整数で答えなさい。

Aの選択肢 ～省略～

ねらい	質量パーセント濃度を、公式により求めることができる。	平均正答率 (%)	30.5
正答	B 25%	無解答率 (%)	9.5

☆分析

平均正答率は30.5%であり, 計算式を考え, これを使って計算し解答する力が十分身に付いていない。Aの平均正答率から, 計算の前提となる正しい立式ができる生徒は約半数しかいない状況があり, 質量パーセント濃度を求める段階に至っていない生徒が多いと考える。立式ができた生徒も, 割り算の部分で正しい計算ができていないことが考えられる。

☆指導のポイント

小学校でも水溶液を学習していることから, ここの学習を復習しながら想起させ, これに粒子モデルを関連付けながら溶解の概念を獲得させることが大切である。計算については, 計算しやすい数値 (分母に当たる溶液の質量を100gにする) から段階的に計算力が必要となる数値へと変えていくなど, 数値を工夫しながら継続して取り組んでいくことが大切である。

特徴の見られた問題例 (中学校2年 理科)

B問題 ① 1・3 平均正答率が低く、無解答率が高かった問題

【学習問題】

高い音や低い音は、どのような条件によって決まるのだろうか。

【予想】

弦を張る力が弱いほど弦は振動しやすくなると思うので、弦を張る力が弱いとき、高い音が出ると思うよ。

【実験】 省略

【表】 省略

- 1 奏真さんは、自分の【予想】を確かめるために実験結果を比べることにしました。
 (2) 条件Aのとき、オシロスコープでその音の波形を調べたところ、図2のようになりました。奏真さんの【予想】が正しければ、(1)で選んだ条件で音を出したときの、オシロスコープの波形はどのようになるかと予想されますか。次のア～ウから最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

ねらい	予想が正しいと仮定した場合の実験結果を選ぶことができる。	平均正答率 (%)	38.1
正答	ウ	無解答率 (%)	2.8

- 3 会話文中のイに、弓子さんが下線部のように判断した理由を書きなさい。

そうかなあ。
 条件Aと条件Bでは、(イ) から、弦の太さは、振動の振れ幅に関係しているとは言い切れないと思うよ。



ねらい	実験の結果を分析、解釈し、科学的により適切な考察となるよう改善できる。	平均正答率 (%)	19.5
正答	(例) 弦の太さは同じであるが、振動の触れ幅が違っている	無解答率 (%)	16.0

☆分析

1は予想を確かめるために適切な条件を選択し、予想が正しいと仮定した場合の実験結果を選択する問題であり、3は該当する箇所合うよう記述する問題である。

1では、奏真さんの予想は事実と異なるが、この予想を確かめるための条件を設定する部分については、正しく答えられている生徒は多い。しかし、予想に合致した実験結果を選択できていない。

3では、弓子さんの判断した理由について、根拠をもって説明しなければならない。誤答を見ると事実のみを記述し、根拠に基づいた記述が少ない。問われていることの意味が正しく判断できず、何を、どの程度説明しなければならないのかが曖昧のまま記述しているのではないかと考える。また、3のような記述式の問題では例年、何も書かない生徒が多い。この問題に対する無解答率約16%は、正答を得られなかった生徒の約2割が何も書けなかったことを示している。日頃の授業において、自分の考えを書くことに慣れていないことが考えられる。

☆指導のポイント

問題解決的な学習指導過程を取り入れて学習を進めるに当たり、その学習指導過程の中で予想を立て、見通しをもって観察・実験の計画を立て、可能な限り生徒が主体となった活動になるようにすることが大切である。その際、例えば、予想をする場面では、予想に対する見通しを個人で考えるとともに、グループや全体で共有して多様な意見に触れ、それぞれの予想を確かめるための条件設定について考える機会を設定することが考えられる。

また、日々の授業において、意見や考えを発表させるだけでなく、根拠をもとに説明させることが大切である。

9 中学校2年：英語

学習状況調査の結果概要

平均正答率は、58.8%である。「聞くこと」については、平均正答率が70.2%と高くなっている。一方、「書くこと」については、平均正答率が50.0%と低い。特徴の見られた問題では、平均正答率が低かったA問題の52(3)と、無解答率が高かったB問題の32を取り上げている。

① 分類・分野/領域別正答率(%)

分類	A問題	B問題	分野 領域	聞くこと	読むこと	書くこと
		61.5		48.1		70.2

② 正答数の分布(縦軸の単位は(人))



③ 設問別正答率・無解答率

分類	問題番号		出題内容	出題のねらい	領域	正答率(%)	無解答率(%)
	番号	大問					
A	1	1	No.1 場面に応じた質問に対する応答の理解	短い対話を聞いて、絵の内容に合う適切な応答をすることができる。	聞くこと	80.0	0.2
	2		No.2 場面に応じた質問に対する応答の理解	短い対話を聞いて、絵の内容に合う適切な応答をすることができる。	聞くこと	83.7	0.2
	3		No.3 場面に応じた質問に対する応答の理解	短い対話を聞いて、絵の内容に合う適切な応答をすることができる。	聞くこと	75.7	0.3
	4	2	No.1 質問に対する応答の理解	質問を聞いて、適切な応答をすることができる。	聞くこと	85.6	0.3
	5		No.2 質問に対する応答の理解	質問を聞いて、適切な応答をすることができる。	聞くこと	80.7	0.2
	6		No.3 質問に対する応答の理解	質問を聞いて、適切な応答をすることができる。	聞くこと	69.3	0.2
	7	3	No.1 身近な暮らしに関わる会話表現の理解	まとまりのある対話を聞いて、活動内容を適切に聞き、答えることができる。	聞くこと	80.9	0.1
	8		No.2 身近な暮らしに関わる会話表現の理解	まとまりのある対話を聞いて、物が置いてある場所を適切に聞き、答えることができる。	聞くこと	40.7	0.2
	9		No.3 身近な暮らしに関わる会話表現の理解	まとまりのある対話を聞いて、移動方法を適切に聞き、答えることができる。	聞くこと	35.2	0.2
	10	4	1 基本的な文法事項に関する知識・理解	主語とbe動詞の組合せを理解し、適切に選ぶことができる。	読むこと	54.2	0.2
	11		2 基本的な文法事項に関する知識・理解	前置詞と代名詞の組合せを理解し、適切に選ぶことができる。	読むこと	52.2	0.3
	12		3 基本的な文法事項に関する知識・理解	月名と序詞の組合せを理解し、適切に選ぶことができる。	読むこと	47.9	0.5
	13	5	1(1) 言語の使用場面と表現の理解	短い対話を読んで、場面に応じた適切な疑問文を選ぶことができる。	読むこと	71.2	0.5
	14		1(2) 言語の使用場面と表現の理解	短い対話を読んで、疑問文に応じた適切な応答を選ぶことができる。	読むこと	65.4	0.5
	15		2(3) 言語の使用場面と表現の理解	短い対話を読んで、疑問文に応じた適切な応答を選ぶことができる。	読むこと	39.6	0.7
	16	6	1 対話文の内容理解	対話文を読んで、代名詞が指す内容を理解することができる。	読むこと	63.6	7.9
	17		2 対話文の内容理解	疑問詞を含む英文の正しい語順を理解することができる。	書くこと	59.9	2.5
	18		3 対話文の内容理解	対話文を読んで、場面に応じた適切な応答をすることができる。	書くこと	76.4	1.3
	19		4 対話文の内容理解	対話文を読んで、内容に関する質問に適切に答えることができる。	読むこと 書くこと	49.9	8.4
	20		5 対話文の内容理解	対話文を読んで、内容に合う適切な語を書くことができる。	書くこと	17.4	15.3
B	21	1	1 手紙の内容理解	手紙を読んで、内容に合う適切な英文を選ぶことができる。	読むこと	55.0	1.0
	22		2 手紙の内容理解	手紙を読んで、内容に合う適切な英文を選ぶことができる。	読むこと	31.5	1.1
	23	2	対話文や資料の内容理解	対話文やメモから必要な情報を取り出し、適切なものを選ぶことができる。	読むこと	57.5	1.5
	24	3	1 対話文における条件英作文	対話文の内容に即して、自分の考えなどを英語で正しく書くことができる。	読むこと 書くこと	55.3	14.9
	25		2 対話文における条件英作文	対話文の内容に即して、自分の考えなどを英語で正しく書くことができる。	読むこと 書くこと	41.2	16.0

特徴の見られた問題例 (中学校2年 英語)

A問題 ⑤ 2(3) 平均正答率が低かった問題

⑤ 次の1, 2の (1) ~ (3) に当てはまる最も適切なものを、下のア~エの中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

2 Ms. Brown : Who usually washes the dishes in your family?
 Taro : (3)
 Ms. Brown : Do you help him?
 Taro : Yes, of course.

- (3) ア My father is.
 イ My father does.
 ウ My mother is.
 エ My mother does.

(3)	正答	イ
-----	----	---

ねらい	短い対話文を読んで、疑問文に応じた適切な応答を選ぶことができる。	平均正答率(%)	39.6
		無解答率(%)	0.7

☆分析

平均正答率39.6%という結果で、誤答の多くがbe動詞を含む【ア My father is.】であると推測される。平成29年度の本調査では、今回と同じ内容の文法事項を出題(正答率32.5%、無解答率0.8%)しており、それと比較すると若干の改善は見られる。

新出事項として、疑問詞whoを取り扱った表現は下の通りである。

Sunshine English Course 1

Who is that boy? He is my friend Tom. (68ページ)
 Who likes music? Mike does. (77ページ)

生徒は、疑問詞whoの後にbe動詞が続く疑問文を基本文として学習し、その後も繰り返し授業で取り扱われるため、この表現を十分に身に付けていく。しかし、疑問詞whoの後に一般動詞が続く疑問文は、文法項目をまとめた【英語のしくみ】で取り上げられているだけである。そのため、生徒はこの表現に慣れていないと考えられる。

☆指導のポイント



教科書に出てくる頻度の少ない言語材料については、単元計画を見直したり、帯活動で取り上げるなど日々の授業の中で意識して指導をしていきましょう！

今回のような表現は、1年生の教科書では基本文や本文の中で取り扱われていない言語材料です。しかし、2年生の教科書では、本文に対する質問として次のように挙げられています。

<67ページ> Who said, "I want to be rich"? One of the street children (in Rio) did.
 <81ページ> Who invented soft tennis? Japanese people did.

このように、1年生のうちに理解していないと、生徒が質問に答えられない状況が生まれます。そのような状況を生み出さないため、次のような取組を試みましょう。

【活動例1】○ Program7において、疑問詞whoの後にbe動詞が続く言語材料とは別に、一般動詞が続く言語材料を取り扱う授業を1時間設定し、それらの定着を図るようにする。

【活動例2】○ Picture Chartを示して本文の導入や復習をする際、疑問詞whoに関連する表現を取り扱い、継続的に指導する。
 特に過去形を導入した後は、Who played? Who visited? など、意識的に過去形で答えさせる表現も取り扱い、用法の定着を図る。クラスルームイングリッシュの中で、タスクを終了した生徒にWho finished? と尋ねることもできる。



1時間の学習にとどめるのではなく、繰り返し復習する場面を設け、言語材料の定着を図りましょう！

特徴の見られた問題例 (中学校2年 英語)

B問題 ③ 2 平均正答率が低かった問題

③ 次の1, 2の対話文は、エマ(Emma)と陸(Riku)が、話をしている時のものです。次の 内の語に必要な語を加えて、それぞれの会話が成り立つように、**4語以上**の英文1文を書きなさい。ただし、符号(, . ! ? など)は語の数に入れないものとします。

2 Riku : This is a present for you.

Emma : open

Riku : Of course.

Emma : Wow, a music box! Thank you.

正 答 (例) Can I open it?

ねらい	対話文の内容に即して、自分の考えなどを英語で正しく書くことができる。	平均正答率 (%)	41.2
		無解答率 (%)	16.0

☆分析

1年生の教科書(Sunshine English Course 1 105ページ)にある本文と同じ基本的な表現であるにもかかわらず、平均正答率が41.2%と低く、無解答率が最も高い。その理由として考えられるのは、小学校からCan you ~?の表現は繰り返し学習しているが、Can I ~?の表現にあまり慣れていない、4語という条件の下で、目的語に何を使ったらよいのか(名詞なのか代名詞なのか)が理解できていない、音の連結と文字が結び付いていないことなどが考えられる。

☆指導のポイント

- 基本的な表現を身に付けさせるために、口頭練習や教科書の音読に十分時間をかけましょう。また、口頭では、文法上の細かい間違いに気付かないことも多いので、十分に話せるようになったら、書く活動を行い、音と文字の一致を確認しましょう。



音と文字の一致を図るような指導を行いましょう。

【活動例1】○ しっかりとした場面設定のもと、基本文型を使った必然性のある活動を行う。

【活動例2】○ 教科書を読む際は、スラー()を入れるなどして、音の連結に気を付けて読ませる。(例) Can I open it?

【活動例3】○ 話せるようになったら、ディクテーションなどを行って、音と文字の一致を確認する。

- 対話文やまとまりのある文章では、既出の名詞が代名詞に置き換えられます。内容を正しく理解させるためには、それぞれの代名詞が、誰、何を指しているかを確認させることや英作文などをさせる際に、代名詞を使わせることが重要です。



代名詞の使い方を意識して指導しましょう。